

Small Kindness Movement

小さな親切

「小さな親切」
作文集
第32号



くるめ「小さな親切」運動の会

「小さな親切」の歌

みんなのしあわせ

作詩 鈴木比呂志

作曲 横村 享



みんなの みんなの し - あわせ は



や - まの かなたに あ - るかしら



いやいやみんなの みのまわり ほらすぐそこに あるのです



ほんのちい さ な しん - せ つ が



ひ - との こころに ひ - をともす

みんなのしあわせ

(1) みんなの みんなの しあわせは
山の彼方に あるかしら

いやいや みんなの 身のまわり
ほら すぐそこに あるのです

ほんの小さな親切が
ひとの心に 灯をともし

(2) 満員電車で 揺られても
席をゆずって ゆずられて

ほのほの 明るい 朝の街
ほら いま立った学生さん

ほんの小さな親切が
そよ風みたいに 匂います

(3) 道を聞かれた 昼さがり
おしえてあげたら そのひと

たばこ屋さんの まがり角
ほら にっこりと おじぎした

ほんの小さな親切が
山彦みたいに 呼びかえす

(4) あぶない線路や 道ばたの
石ころ 一つを 拾うにも

日頃の勇気が いるものさ
ほら だれだって すぐやれる

ほんの小さな親切を
忘れず気ながに いつまでも

くるめ「小さな親切」運動の会

題字「ほのほの」は、初代会長・三島重人氏によるものです。

「小さな親切」シンボルマーク



「小さな親切」シンボルマークは、双葉に太陽をかたどったもので、小さな芽があたたかな太陽の光の中で大きく成長することを願って作られました。会旗、「小さな親切」会員証・実行章・ポスター等に広く使用されています。
このステッカーは、創立15周年記念で作成しました。

実行章贈呈

「小さな親切」ありがとう

あなたがみた親切、あなたがうけた親切を推せんしてください。
「小さな親切」実行章(賞状とバッチ)をおくります。

〈推せん方法〉

親切を実行した人の氏名・年齢(学年)・住所(学校名)と実行内容を書いてくるめ「小さな親切」運動の会事務局宛お送りください。電話でもけっこうです。

くるめ「小さな親切」運動の会事務局

TEL/FAX(0942)37-7711

〒830-0037 久留米市諏訪野町2456番地の1 筑邦銀行本店内

「小さい親切」

くるめ「小さな親切」運動の会 会長 佐藤 清一郎



「小さな親切」運動は、一九六三年に東京で発足し全国に広がっていきました。今から六十二年前の事です。戦争が終わって十八年目ということで、人々がやっとなべていけるようになった段階で、この「小さな親切」運動が始められたということは、さすが日本だな！と誇らしく思っています。しかしながら六十数年の月日が過ぎ、日本の社会、そして日本人の心はどのように変化してでしょうか？経済は発展し、ITやAIなどのテクノロジーが進歩し、世界中の情報が瞬時に伝わる世の中となりました。一方でサイバー攻撃やお年寄りをだます特殊詐欺などが増加し、ますます被害が拡大しているという事で大変心配をしています。

昔が全て良かった訳ではありませんが、日本人の持っている優しさや思いやりの心は決して失ってはならないと思っています。その意味において、日本全国で草の根のように活動をしている「小さな親切」運動は大切なのです。

くるめ「小さな親切」運動の会では、できる親切はみんなでしょう！それが社会の習慣となるように「をスローガンに掲げ、「みんなで明るくあいさつをしよう」「自分たちの住んでいる街をきれいにしよう」「困っている人がいたら進んでお手伝いをしよう」など、誰にでもできる「小さな親切」を街の隅々にまで広げようと、地域・団体・個人が一体となって活動をしています。

さて、くるめ「小さな親切」運動の会では、小・中学生を対象に「小さな親切」にまつわる体験を発表していただく場として、作文コンクールを毎年開催しています。今年度は、筑後地区一円の小・中学校三十一校から一千四十四編の作品が寄せられました。自分が行った親切や出来なかった親切、人から受けた親切や見た親切、挨拶を交わして励まされる喜びや、困っている人の役に立ちたいと思って行動したことなど、日常生活の中で思いがけなく遭遇する親切の行為が様々な心で描かれています。

ここに、それぞれの思いや多くの貴重な体験を綴った受賞作品を四十四編収録いたしました。必ずや皆様の共感をいたただいて、「小さな親切」の輪が更に広がっていくものと確信いたしております。是非ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、「小さな親切」作文コンクールの開催にあたり、久留米市をはじめ、応募校の校長先生、ご担当の先生方など多くの皆様に献身的なご協力を頂きました。また、作文の審査にご協力・ご尽力頂きました各位にも心より感謝申し上げますとともに、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

愛のふれあい「小さな親切」

久留米市長 原 口 新 五



「小さな親切」作文集「ほのぼの」第三十二号の刊行、誠におめでとうございます。

久留米市は、平成元年一月十五日に「ふれあい都市宣言」を行い、「小さな親切」実践都市として「久留米市ふれあい都市推進協議会」を中心に「小さな親切」運動を街の隅々にまで広げるため、あいさつや声かけ運動、環境美化運動などの活動を推進しております。

くるめ「小さな親切」運動の会の皆さまには、この活動の中心となってご活躍していただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、毎年実施されておりますこの作文コンクールですが、今回は「私のした・うけた・みた・できなかった」「小さな親切」と「あいさつ」をテーマに、県南地域の小・中学校三十一校から一千四十四編もの応募をいただいております。

いずれの作品も、児童・生徒の皆さんが日常での体験を通じて、考え、感じ取った「小さな親切」についてのものであり、「ほのぼのしたやさしい気持ち」になるとともに私たちが忘れていた「小さな親切」を改めて再確認させられるものばかりでした。

久留米市では今年度、まちづくりの指針となる市の総合計画『久留米未来デザイン計画二〇三五』を策定しました。この計画に基づき、「優しさ豊かさ輝きあふれるまち」を将来都市像に掲げ、住んでみたい、住み続けたい久留米を創っていきたくて考えております。私が市長に就任してからの四年間で、まちづくりの鍵を握る「人」を育て、支えることを大切にしながら地域の成長につながる取り組みを進めてまいりました。今後も、時代の潮流や急速に進む社会経済環境の変化を的確に捉えながら、市民の皆様と共に取り組みを進めてまいりたいと考えております。

くるめ「小さな親切」運動の会の皆さまの活動は、これからの久留米のまちづくりに大きく寄与するものであり、今後も「小さな親切」を大切にする心が、多くの市民の皆さまに浸透し、その活動の輪が益々広がっていくことを期待いたします。

結びに、この「作文集」の作成にあられた佐藤会長をはじめ、くるめ「小さな親切」運動の会の皆さまのご尽力に心より感謝と敬意を表します。そして何より未来を担う子どもたちの健やかな成長と、くるめ「小さな親切」運動の会の益々のご発展を祈念いたしました私の祝辞といたします。

「小さな勇氣」が、大きな「優氣」へ

久留米市教育委員会 教育長 井上謙介



「小さな親切」作文集「ほのぼの」第三十二号の刊行に際しまして、心からお喜び申し上げます。すとともに、この歴史ある「小さな親切」作文コンクールが、子どもたちに他者への思いやり、よりよい人間関係を構築する力など、豊かな人間性を育む上で貴重な機会になっておりますことに改めて感謝申し上げます。

本年度の「小さな親切」作文コンクールにも、久留米市を中心に筑後地区一円の小・中学校三十一校から、一千四十四編の作品が寄せられました。この作文集には、児童・生徒の皆さんが日常生活の中で見つけ行動した「親切」の数々が瑞々しい言葉で綴られており、いずれも大変心温まる作品ばかりで、読み終えた後も優しい余韻に浸っています。

掲載されている様々な親切は、決して特別なことではなく、日常生活の中で経験したことがあることかもしれません。しかし、実行に移すには、「相手のために、今の自分にできることはないか」を考え、それを実行に移す「勇氣」が必要です。「恥ずかしいな」「自分じゃなくてもいいかな」という迷いを一歩踏み出し、行動に変える。その勇氣が、相手の心を温め、自分自身の心をも豊かにする「優氣（優しい気持ち）」へとつながっていきます。心温まる行動の数々や温かく思いやりにあふれた行動は自然に育つものではなく、くるめ「小さな親切」運動のような長年続く取組の積み重ねが、子どもたちの成長を支える大きな力となり、そして、本当に助けを必要としている人たちの大きな安心につながるものと考えます。掲載されている作文は子どもたちだけではなく私たち大人にも「小さな親切」がもつ素敵な力や大切さを再認識させてくれます。そのため、この作文集「ほのぼの」をできるだけ多くの方々がお読みくださることを切に願っております。そして、「小さな親切」の気持ちや行動が、たくさんの方々の大きな安心につながっていくことを期待しております。

結びになりますが、「ほのぼの」の刊行にご尽力いただきましたくるめ「小さな親切」運動の会の皆様に深く感謝申し上げますとともに、くるめ「小さな親切」運動の会の益々のご発展と、佐藤会長をはじめ事務局の皆様方の益々のご活躍を心から祈念いたします。

審査講評

審査委員長 西日本新聞久留米総局長 入江剛史



第三十二回「小さな親切」作文コンクールには筑後地区を中心に小中学校三十一校から一〇四編が寄せられました。私のした・うけた・みた・できなかった「小さな親切」とあいさつをテーマにした文章には、小中学生の皆さんの優しさが詰まっていました。

くるめ「小さな親切」運動の会会長賞に選ばれた二つの作文を紹介させていただきます。

小学生の部で受賞したのは久留米市立荒木小五年の平島れいなさんの「見守るのも親切」。ひいおばあちゃんが歩くのを支えようとしたのですが、意外にも断られました。そこには百歳まで生きる夢があり、自分の力で歩きたいという思いがあったということです。平島さんは見守る親切があることに気がきました。それから、ひいおばあちゃんを喜ばせ、その笑顔を待つようになります。親切というと、どんな行いをしたかに目が向きがちですが、見守るといふ親切の形を描いたことが多くの人の心に響いたのだと思います。最後の一文、「私はひいおばあちゃんを百歳まで喜ばせてあげるのが夢です」。余計な言葉がなく、ずっと読む者の心に入りこみます。

中学生の部は、久留米信愛中一年の阿南恵璃花さんの「私の小さな親切」です。病気などで髪の毛がなくなった子どもたちのウィッグをつくるため、自らの髪を提供した体験が書かれています。事実と想いを丁寧につづり、決して飾らない文章が、「小さな親切」に自然体で向き合う阿南さんの姿と重なります。体験者だからこそ、伝えられる感覚、心の動きも表現されています。「切った日の洗髪はすごく軽く、違和感だらけだったけれど、心が嬉しい違和感でした。ちよっとほこらしくもありました」。読み手は、見知らぬ阿南さんの姿を思い浮かべながら、自らも心を温かくします。

会長賞のほかにも、思いがこもった作文が並びました。何を書こうか、どう書こうか。小中学生の皆さんは原稿用紙を前に、思いを巡らせたと思います。書いては消す、そして書き直す中で自らの考えはまとまっていきます。文章になることで、その思いは広がります。作文集「ほのぼの」としてまとまったことで、皆さんの優しさは、これからも遠くに、きっと運ばれていくと思います。

結びになりますが、作文コンクール開催、作文集の編集にご尽力された、くるめ「小さな親切」運動の会の佐藤清一郎会長をはじめ、関係者の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、運動の会の益々のご発展を祈念いたします。

目次

【特別掲載】

○内閣総理大臣賞

祖父の地球儀……………栃木県

森田 智仁(1)

○文部科学大臣賞

ばあちゃんからのバトン…福島県

國分穂乃花(3)

【小学生の部】

○くるめ「小さな親切」運動の会長賞

見守るのも親切……………

久留米市 平島れいな(6)

○久留米市長賞

赤ちゃんとお母さんとわたし…

久留米市 宮野 紗希(7)

○久留米市議会議長賞

「親切のカタチ」……………

久留米市 福本 京夏(9)

○久留米市教育委員会教育長賞

親切はめぐる……………

久留米市 中村 碧(10)

○久留米市社会福祉協議会会長賞

私ができる親切……………

久留米市 緒方 那帆(12)

○久留米市ふれあい都市推進協議会会長賞

校長先生のあいさつカード……………

久留米市 野口 真由(13)

○筑邦銀行賞

勇気と笑顔……………

久留米市 足達 結月(14)

○久留米警察署長賞

やさしいおねえさんにおそわったこと…

久留米市 吉川 小陽(16)

○久留米商工会議所会頭賞

おばあちゃんがとまりにきた日…

久留米市 佐伯 茉香(17)

○西日本新聞社賞

車椅子のおじいさん……………

久留米市 森 和奏(18)

○毎日新聞社賞

「ぼくのおん返し」……………

久留米市 石橋 結心(19)

○朝日新聞社賞

ヘルプマーク……………

久留米市 青柳 美遥(20)

○読賣新聞社賞

挨拶……………

久留米市 真木 蒼大(22)

○時事通信社賞

小さな親切がなぐ心……………

久留米市 堤 りお(23)

○入選

小さな親切は大きな笑顔……	久留米市	平野衣緒理(24)
思いやりの気持ち……	久留米市	高橋慶一郎(26)
町をきれいに……	久留米市	轟 佳子(27)
クラスのみんなありがとう……	久留米市	津田 珠希(28)
心があたたまる小さな親切……	久留米市	野田ゆづき(30)
だれかのために……	久留米市	三堂 加乃(31)
あいさつの大切さ……	久留米市	伊豆美沙希(32)
しあわせな親切……	小郡市	甲斐田彩佳(34)
わたしがうれしかったこと……	久留米市	末安 莉菜(35)
小さな親切……	久留米市	古川 葉椰(36)

【中学生の部】

- くるめ「小さな親切」運動の会会長賞
- 私の小さな親切……
- 久留米市 阿南恵璃花(40)
- 久留米市長賞
- 「親切心」とは何か……
- 久留米市 平湯 夏蓮(41)
- 久留米市議会議長賞
- 親切の恩返し……
- 久留米市 熊脇 勇太(42)
- 久留米市教育委員会教育長賞
- 「少しの勇氣」……
- 大牟田市 尾山 由奈(44)
- 久留米市社会福祉協議会会長賞
- 静かな優しさに気づいた日……
- 大牟田市 森崎 子湖(45)
- 久留米市ふれあい都市推進協議会会長賞
- 「小さな親切」……
- 大牟田市 北原 実祈(46)
- 筑邦銀行賞
- 親切のつながり……
- 久留米市 松田 勇真(48)
- 久留米警察署長賞
- 私の小さな親切……
- 大牟田市 庄山 心菜(49)
- 久留米商工会議所会頭賞
- 元気なあいさつで地域の人とつながる……
- 八女市 鶴田 葵(50)

○西日本新聞社賞

挨拶をする意味について……………

大牟田市 原田妃菜里(52)

○毎日新聞社賞

小さな親切がくれた安心……………

久留米市 速水 綾萌(53)

○朝日新聞社賞

「あいさつ」一つで、笑顔二つ……………

久留米市 平島 詠(55)

○読賣新聞社賞

「親切の連鎖」……………

久留米市 廣田 悠人(56)

○時事通信社賞

小さな勇気のカケラ……………

久留米市 山城 祐翔(57)

○入選

優しさは、気づく力……………

久留米市 関 美心(59)

あいさつについて……………

久留米市 大石 泰靖(60)

親切とは……………

大牟田市 下川 莉衣(62)

バスの中のさりげない行動……………

久留米市 柿本 麻里(63)

バス停……………

久留米市 中村功之介(64)

小さな親切が運んできた奇跡……………

久留米市 熊添 結南(65)

現在の活動状況（パブリシティ活動・新聞の話題）……………

あとがき……………

第50回公益社団法人「小さな親切」運動本部主催作文コンクール特別賞作品

内閣総理大臣賞

祖父の地球儀

栃木県 中央小学校 五年 森田 智仁

祖父の地球儀、それは石川県の祖父の家にある。幼いころ、ぼくが祖父の家に遊びに行ったとき、おもちゃのようにしてクルクル回して楽しんでた。思い出の地球儀だ。今はだれもない祖父の書きいで留守番をして、入院した祖父の帰りを待っている。

ぼくは小さいころ、言葉の発達がおそかった。家族はとても心配した。父や母や祖母がむずかしい顔をしているとき、祖父だけはいつも通りの祖父だった。「ともくんは、できる子や。何も悪いことはしとらん。心配せんでいい。できるようになるまで、かかる時間は人それぞれなんや。」と言った。発音が下手でも、言葉が少なくても、伝えたいことが伝わらず泣き出したときも、最後には必ず「大丈夫や」としめくくった。

いつも、温かい顔をしていた。

ぼくは地球儀で遊んでいるとき、いつも祖父に「日本はどこや?」ときかれた。ぼくは決まってニュージーランドを指した。すると、祖父はニコニコしながら、「こはニュージーランドという国や。そういわれてみれば、島国やし、春も夏も秋も冬もある。日本とそっくりやね。」そして、「ともくんは天才やな。」と言い、二人で大笑いした。みんなより成長がおそかったぼくが、何だかほこらしい気持ちになったしゅん間だった。

言葉ではない、祖父との心のやりとりが、夏休みやお正月の楽しみだった。しかし、それは突然、失われてしまった。祖父が脳の病気になる、左半身が不自由になり、言葉を発することができなくなったのだ。あれほど元気でおしゃべりが大好きだった祖父。信じられなかった。祖父が入院中、ぼくは幼稚園に通って、たくさんのお言葉を表現できるようになっていった。それでも、ほかのお友達よりはおそかった。でも、言葉の意味、言葉の音、言葉をつかう場面が、それぞれ点と点で結ばれていったような気がした。そしてぼくは、

「できるようになるまで、かかる時間は人それぞれ」と言ってくれた祖父に心から感謝した。

祖父は、島めぐりが好きだった。人と違った旅行をしたいと郵便局のある孤島へ行って、貯金通帳に百円貯金をして証を残した。合計二百十五の有人島を旅したそうだ。

人の心は地球儀みたいだ。見えるのは姿だけだ。祖父が旅した小さい島のように、地球儀では確認することはできない部分もある。知ろうとすることで、見えなかったこともわかることもあり、親切がうまれていくと思う。ぼくは、祖父のように、地球をてらす太陽のように、誰かの心を温かくできる存在になりたい。

この夏、学校で勉強したニュージーランドの知識を祖父に伝えてみた。祖父は、顔をくしゃくしゃにして喜び、指で丸を作ってくれた。言葉はなくても、ぼくには祖父が教えてくれた親切な心と、心で会話できるツールがある。それだけで十分だ。



文部科学大臣賞

ばあちゃんからのバトン

福島県 大玉中学校 一年 國分 穂乃花

令和六年十月、大好きな曾祖母が亡くなった。

小さい頃からいっしょで、学校から帰ると毎日お茶飲みをした。私が母に怒られると、そっと私を呼んで頭をなで、おかしをくれた。言葉はなくてもほっとした。またがんばろうと思った。

令和六年は全国各地で熊の被害が多発し、私がバス停まで歩く通学路でも熊が目撃されていた。両親は仕事で送って行けない。一人で歩かないように言われても、周りに友達はいない。不安がる私を見て曾祖母は、「ばあちゃん、いっしょに行ってやつから。」と言って、バス停まで歩いてくれた。七月半ば、曾祖母は私をバス停まで送った帰り、暑さもあって心筋梗塞を起こし、救急車で運ばれた。それからどんどん悪いところが出

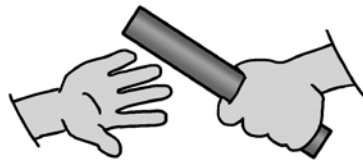
てきて、十月に息を引きとった。

(私のせいだ。)曾祖母が亡くなり、私は自分を責めた。なんとももう一度会いたい。その一心で、スマホで「死んだ人に会う方法」「夢に死んだ人が出る方法」を調べまくった。でも、何一つ叶うものはなく、喪失感だけが残った。曾祖母との思い出は優しくされたことばかりで、私には怒られた記憶がない。私や家族のために家事をしたり、おかしをくれたり、私が母に怒られないように、私がやったようにして片付けてくれることもあった。具合が悪くなった日も、暑い中、私のためにバス停までいっしょに来てくれたのだ。誰にでも優しく、人のために何でもする。まさに「親切」な人だった。私には曾祖母の血が流れている。それを実感したくて、人に親切にすることにした。落ちているものを拾ってあげる。忘れ物をした友達に貸してあげる。母が忙しいときは掃除をしてあげる。弟の着替えを手伝ってあげる。自分の思いつく親切をやってあげたつもりだった。みんなに「ありがとう」と感謝された。でも、何かが物足りない。やはり私は、曾祖母のように優し

い人にはなれないのだ。そう思うと、また無力感でいっぱいになった。

しばらくして母が体調を崩し、動けなくなったことがあった。リビングで横になっている母に、そっと毛布をかけた。母は気づかずに眠っていた。次の日、寝ていたはずの母から、「昨日毛布をかけてくれてありがとう。温かくて元気になったよ。」と言われた。私はその言葉にはっとした。今まで自分がやってきた「親切」は、人に感謝されるために「やってあげる」ことだったのだ。「やってあげる」というのは上下関係ができあがり、常に自分は上にいると思っていた。曾祖母は常に人と対等で、心から「人のため」に動いていた。私の母への親切は、見返りを求めない、心から母のためだった。少しだけ曾祖母に近づけた気がした。

亡くなった人には会うことはできないが、想いをつなぐことはできる。曾祖母から受け継いだ「親切」のバトンを大切につないでいきたい。ばあちゃん、私、がんばるね。



第32回くるめ「小さな親切」運動の会主催作文コンクール受賞作品

小学生の部

くるめ「小さな親切」運動の会会長賞

見守るのも親切

久留米市立荒木小学校 五年 平島 れいな

私には九十五歳になるひいおばあちゃんがいます。

私が赤ちゃんの頃はミルクを飲ませてくれたり、おむつを換えてくれたり、遊んでくれたり、してくれました。私が産まれた時から足が悪くてつえをつけていました。私が八歳になる頃にはゆっくりとしか歩けなくなりました。お風呂も一人で入れなくなり今では家族と一緒に入ってあげています。

そこで私もひいおばあちゃんのために何かできる事はないかと思い、家族がお世話をしているのをまねして、イスにすわる時はイスをひいてあげたり、立ちあがる時はささえてあげたり、ごはんの時間に部屋に呼びに行つてあげたりしました。でも歩く時にささえてあげようとすると「大丈夫だよ。一人で歩けるから。」

と断られてしまいました。こんなにゆっくり歩いていて大変そうだから、お手伝いをしようと思ったのに、なぜ断られたのか分からなくて、少し悲しくなりました。

何日かたち、やっぱり断られた理由が知りたくなり、ひいおばあちゃんに直接聞いてみました。理由を聞いたら納得もでき、同時にうれしくもなりました。それは「百歳まで生きるのが夢なんだよ。長生きしてひまご達の成長を近くでみていたいから自分の力で歩いて、家族にめいわくをかけたくない。」と言っていました。だから歩く時はつえをつきながらでも自分の足の力で歩いているそうです。リハビリをしてもらえる施設にも通つて、毎朝ラジオ体操もして、ごはんもきちんと食べて健康でいられるように努力しているそうです。

私も何かを頑張っている時は、自分の力でやりとげたい気持ちがあるので、他の人が手伝ってくれそうになつても自分でやりたいと思うので、ひいおばあちゃんも見守っていてほしいんだと分かりました。だから私は、お手伝いをしてあげられない代わりに喜んでほ

しいと思い、毎年ひいおばあちゃんの誕生日に手作りの写真立てをプレゼントしようと、決めました。そこには年齢とひまご達と誕生日ケーキをかこむうれしそうなひいおばあちゃんの写真を入れています。今年で三つ目になりますが、どんなデザインだったら喜んでもらえるかなと考えたり、あまりわらわなくなったりひいおばあちゃんを、どれだけわらわらせてえがおの写真にできるかも考えたりして作っています。

ひいおばあちゃんは百歳まで生きるのが夢だそうですが、私はひいおばあちゃんを百歳まで喜ばせてあげるのが夢です。



久留米市長賞

赤ちゃんとお母さんとわたし

福岡教育大学附属久留米小学校 三年 宮野 紗希

わたしは家からはなれた学校に通っているのですが、毎日電車にのっています。わたしがのるえきは始発えきなのですわれますが、とちゅうからいろいろな人がのってくるのですぐまんいんになってしまいます。

ある日、とちゅうのえきで小さい子どもを抱っこしたお母さんがのってきました。お母さんがのってきたときは、電車の中はまんいんで、すわる場所がありませんでした。わたしは、さいしょだれかせきをゆずってあげるのかなと思っていましたが、のっている人はほとんどスマホや本を読んでいて、気づいていない様子でした。そのお母さんは子どもを抱っこしてにもつもたくさん持っていて、きつそうにしていました。すわるのをあきらめた様子でした。

その時、わたしはお母さんから聞いた話を思い出しました。いぜんわたしのお母さんが、わたしがおなかの中にいるときに電車にのって仕事に行っていたけれど、なかなかいすにすわれなくてこまっていたと話していたことを思い出しました。わたしは、その時こまっていた人がいたら助けてあげたいなと思いました。

じっさいにこまっている人を見るときんちようして、なかなか声をかけることができませんでした。わたしは、せっかく声をかけてもことわられたらどうしようと思いました。けれど、ことわられたとしても声をかけるべきだと思って、ゆうきをふりしぼってそのお母さんに、

「このせき、どうぞ。」

と言いました。すると、そのお母さんがびっくりした様子で、

「あ、いいんですか。ありがとうございます。」

と言って、うれしそうにせきにすわってくれました。わたしは、せきをゆずった後いいことができたと思いました。学校に着いて、それから家に帰るまでずっと

うれしい気持ちでした。その日の夜、夕ごはんを食べながら家ぞくにその出来事を話しました。わたしのお母さんはその話を聞いて、

「ゆうきをふりしぼって、よく声をかけることができたね。」

とやさしくわたしに言いました。わたしは、それを聞いてうれしい気持ちになりました。

わたしはこのけいけんを通して、親切をすると相手も自分もうれしい気持ちになる事が分かりました。これからもこまっている人をみかけたら、せっきよくてきに助けたいと思います。



久留米市議会議長賞

「親切のカタチ」

福岡教育大学附属久留米小学校 六年 福本 京夏

私は毎週、バレエレッスンに通っています。帰りの車中はいつも余韻に浸っていますが、その日は違いました。出発して間もなく運転中の母が大声をあげました。「今、誰か倒れた。心臓発作かも。この先に駐車するからあなたはすぐ走って行って。」停車すると同時に私は今来た方へ走りました。母が言った通り、女性がうつぶせに倒れていました。

何と声をかけたか？多分「大丈夫ですか？」を連発していたと思います。母が来るまで時間が長く感じました。母と一緒に、痛いところや家族、連絡先などを質問しました。しっかりと口調ですが、何を聞いても大丈夫との返事。起き上がれますか？にも、大丈夫と言うものの動けません。骨が折れている可能性を考

え、救急車を呼びましょうねと母が言うのと、呼ばなくていいとの返事。やっぱりでした。だって動けないのに…。そして、家族に外出したことを責められるとも言いました。事情がある言い方に、救急車を呼ばないと!!という気持ちにブレーキがかかりました。

そんな時、こちらに向かって走ってくる女性がいました。ご家族？と思いましたが違いました。車中から私達の様子を見て、心配で来てくださったのです。そして一緒に説得してくれました。その時の私は、もちろん母も女性も、人を助けていると思っています。そして、救急車を呼ぶことや家族に連絡をとってあげることが親切な行為とっていました。結局、母は一一九番通報しました。救急隊員は、本人から要請が必要だと言います。しかしおばあさんは電話に向かって大丈夫ですから!!と返事。これでは私達は親切どころか、動けないおばあさんを目の前にして、なにもせず見ている人です。母も女性も、骨折かもしれないと何度も説明し、救急車をなんとか呼びました。ストレッチャーで車内に運ばれドアが閉まると、「ご苦労様でした。」と

いう救急隊員の言葉で私達とおばあさんの関係は糸が切られたように終わりました。

その後、おばあさんがどうなったか分かりませんが時々思い出します。同時に、私の内にすっきりしないものが残っていることを思い出させます。それは、おばあさんが救急車を頑なに拒否し家族への連絡を拒んだこと。そしてあの時私が当然と思つた行いや「親切」がもしかすると違うのでは？ともやもやするのです。では、知らんぷりすれば良かったのか？それは出来ません。なぜなら、動けないおばあさんを放っておけなかつたからです。

今回の出来事は、「親切のカタチ」には色々あること、お互いが良い方向に向かうのが理想だけれど、そうでないとしても人を思う気持ちを大切に心の向かう方向に動けば良いのだと思う出来事となりました。

自分の何かが必要だと感じたなら、迷わず行動に移そうと思います。「親切のカタチ」は色々ありますから!!

久留米市教育委員会教育長賞

親切はめぐる

久留米市立篠山小学校 五年 中村 碧

「どこまでいくの？次のバス停でおりるからどうぞ。」
三年生のころ、習い事へ向かうバスの中で女の人から席をゆずってもらったことがある。そのころは、まだバスに乗ることになれておらず、席をゆずってもらうことも初めてのことだったので、ただうなずいてすわることしかできなかつた。

「お礼ぐらい言えばよかったな。」

そう思いながらバスをおりた。

わたしはこの夏、久留米市少年のつばさの団員として、沖縄での団体研修に参加した。これまでおばあちゃんの家には一人でとまったことがあるが、同じくらいの年代の仲間とねとまりするのは初めてだったので、不安な気持ちでいた。沖縄研修前の事前研修で、同じ

班になった中学生のお姉さんにそう伝えると、

「わたしは去年参加して、楽しかったから大じょうぶだよ。」

と、はげましてくれましたので、ホッとして沖縄研修がより楽しみになった。

いよいよ沖縄研修が始まり、みんなで海で泳いだり、レクリエーションをしたりと楽しい時間をすごした。

研修最終日、首里城見学の後、一人のメンバーの体調が悪くなった。帰りの時間がせまっていたのでかんごしさんにまかせて、わたしたちは首里駅へと向かった。モノレールのとう着を待っていると、かんごしさんといっしょに元気になったメンバーがもどってきた。わたしは、安心してモノレールに乗り、シートにすわって友達と沖縄での思い出について話し始めた。すると、元気になったはずの男の子の顔色が悪くなり、立ったまま手すりによりかかっていることに気がついた。

「具合が悪いのかな、席をゆずろうかな。」

そう思っていた時、リーダーが

「だれか席をかわってあげて。」

と言った。

「わたしのところにすわっていいよ。」

はずかしかったけれど、勇気を出して伝えることができた。

三年生のバスの中で、席をゆずってもらったことを、ふと思いついた。今日までわすれていたけれど、だれかに親切にしてもらったことは、こうやって次の親切を生むのだなと思った。

そして、わたしをはげましてくれた中学生のお姉さんのように、わたしも不安に思っている人をはげまし勇気つけてあげられるような人に成長したい。



久留米市社会福祉協議会会長賞

私ができる親切

久留米市立南薫小学校 六年 緒方 那帆

私は、小学六年生です。幼稚園のころから小さい子のお世話をすることが好きで、得意でした。私はお姉さんと二人姉妹なので、妹や弟がいるお姉さんになりたい気持ちが高く、小さい子のお世話をすることは、とてもうれしいことでした。

私の小学校では、六年生になると、一年生のお世話をします。入学式の日は、友達と絵本の読み聞かせをしました。一人が読み聞かせをしている間は、他の六年生は一年生に、

「聞こえる?」

と声をかけたり、きん張している子に、

「だいじょうぶだよ。」

と声をかけたりして、一年生が安心できるように努力

しました。一月月くらい、毎日一年生のクラスに行つて、朝の準備のお手伝いをがんばりました。

ある朝、一年生の女の子が鼻血を出したらしく、その子の友達が私に知らせに来ました。すぐ私はその子のところへ行き、よごれたところを水道で洗ったり、ティッシュで鼻をおさえたりしました。鼻血を出した子は不安そうな顔をしていましたが、私が来たことで安心したようでした。その後、先生に伝えに行きました。先生やその子から、

「ありがとうございます。」

と言ってもらえて、うれしかったです。助けることができ、良かったなと思いました。また、困ったことがあった時、私をたよってくれたことも、うれしかったです。

次の日、鼻血を出した子から、絵のプレゼントをもらいました。私の顔と「なほちゃん」と、かわいい字が書いてありました。その子からの絵はとてもうれしく、幸せな気持ちになりました。

「親切」という言葉を辞書で調べてみると、「思いや

りの心が深く、真心のあるようす」と、ありました。

さらに、「思いやり」を辞書で調べてみると、「いわゆる心の心をもって、相手の立場になって考えること。」と、ありました。相手の気持ちを考えて行動することが、「親切」なのだとなりました。思いやりの気持ちを持って、親切ができる人になりたいと思いました。

六年生になって、下級生のお世話をすることが増えましたが、お世話をすることは、親切の一つだと思えます。相手のことを思いやっつての行動なので、相手もうれしい気持ちになり、すぐ仲良しになることができました。ろう下ですれちがう時、

「なほちゃん。」

と元気に声をかけてくれる一年生。たくさんの友達ができ、うれしいです。「小さな親切」をこれからも続けて、友達の輪を広げたいです。

久留米市ふれあい都市推進協議会会長賞

校長先生のあいさつカード

久留米市立山川小学校 二年 野口 真由

わたしは学校に行くとき、ドキドキわくわくすることがあります。それは、あさ校門で校長先生にあいさつをして、あいさつカードをもらうことです。

「おはようございます。」

校長先生は、いつもえがおであいさつカードをわたしてくれます。わたしは、今日は校長先生にあえるかな、いないかな、あいさつカードももらえるかなと、ドキドキわくわくしながら学校へ行きます。

あいさつカードというのは、校長先生の作ったカードです。カードには、山川小学校の合い言葉、やりぬこう、まじで、かしこい、ワンチーム、が書かれています。あさ、校長先生とあいさつをするとももらえるカードです。カードをもってきょうしつへ行くと、かみに

カードをもらったかずを書きます。そのあとみんなのカードをあつめて校長先生にわたしに行きます。わたしはいつのまにか、このあいさつカードをもらうことがたのしみになっていました。

はじめて校長先生からカードをもらった時は、とてもうれしくて、たのしい気もちになりました。そしてつぎの日は、またカードをもらえたらうれしいな、もらえなかったらどうしようと、ドキドキしたことをおぼえています。わたしがドキドキしていても、校長先生はかならず気づいて

「おはようございます。」
と、カードをわたしてくれま

「今日もあついですね。がんばってくださいね。」
と、えがおでおはなしをしてくれます。わたしは、いつも声をかけてもらえて、本とうにうれしい気もちになります。

それからつぎの日も、そのまたつぎの日も、わたしは校長先生から、あいさつカードをもらいました。今年二年一組では、わたしは二番目に多くあいさつカード

をもらっています。これからもたのしい気もちであいさつをつづけて、クラスで一番になれるようにがんばりたいです。

校長先生、あいさつカードをつくってください、ほんとうにありがとうございます。

筑邦銀行賞

勇気と笑顔

久留米市立篠山小学校 五年 足達 結月

わたしの性格は、おとなしく、勇気を出して初めての事に取り組む事や、人とのコミュニケーションを積極的にとることが苦手な性格です。

ある日の事、いつも通りに登校していると、たくさんゴミふくろを持って重たそうに運んでいるおばあちゃんを見かけました。その時、わたしは、心の中で、大変そうだな、お手伝いしようかなと思いました。

ただ初めに書いたようにわたしは実際に知らない人を助けてあげるような行動が出来る性格ではありません。しかし、その時はなぜか四年生の総合の学習の中で、「障がい者の人が何か困っているのを見かけたら手助けをしてほしい。」と話されていて、「困っている人に出会った時、助けたいという心が大切。」と書いたことを思い出しました。わたしは、勇気を出して、おばあちゃんに

「そのゴミぶくろを持ちましょうか。」

と声をかけました。おばあちゃんは、笑顔で

「ありがとうございます。」

と言ってくれました。ゴミぶくろはわたしが持つても少し重く感じ、おばあちゃんがここまで持つてくるのは大変だっただろうなと思いました。運んだ時間は、一分もかからなくて、それほど長くありませんでしたが、ごみすて場にとう着するとおばあちゃんはもう一度

「ありがとうございます。」

と言ってくれたので、わたしはすこし照れくさかった

のですが、とてもうれしく感じました。それと同時に、心がとても晴れやかになり、すっきりした感じがして、思わず笑顔になりました。お手伝いしてよかったなと思いました。

困っている時に親切にされる事は、うれしくて、お礼を言われると自分もうれしくなり、おたがい笑顔になりました。小さな親切でみんなの笑顔がどんどんふえていくような社会になってほしいと思います。

元々の性格上、苦手な事ではありませんが、勇気を出して、これからも、困っている人を見かけた時には、手助けをしようと思いました。



久留米警察署長賞

やさしいおねえさんにおそわったこと

福岡教育大学附属久留米小学校 一年 吉川 小陽

わたしは、いつもおともだちといっしょにでんしゃとバスにのって、がっこうにかよっています。あるひ、わたしは、あさおながいたくなって、いつものじかんでんしゃにまにあいませんでした。いつものるつぎのでんしゃに、ひとりでのろうとしたけれど、おともだちがいっしょになくて、がっこうのじかんにまにあうかふあんで、でんしゃにのるのがこわくなりました。わたしは、こわいきもちがだんだんおおきくなりました。わたしは、えきのホームでなみだができました。でも、いっしょのでんしゃに、のるおねえさんがわたしにちかづいてきて、「いっしょにのろうか」といってくれました。わたしは、なみだがとまって、そのでんしゃにのれそうなきもちになって、おねえさんといっしょに

のることができました。でんしゃのなかでもすこしだけふあんなきもちだったけれど、でんしゃのあとにのったバスは、おともだちがのっていたのでふあんにならずにのることができました。がっこうのじかんにあきあうことができました。でんしゃにのることをあきらめてがっこうをやすまなくてよかったとおもいました。わたしは、おねえさんのしんせつのおかげで、ゆうきがでてでんしゃにのって、がっこうに行くことができました。おねえさんは、わたしがなくていたから、しんせつにたすけてくれたんだとおもいます。わたしも、おねえさんのように、ないてるひとやこまっているひとをみつけたら、「どうしたの。」「だいじょうぶ。」とやさしくこえをかけたいとおもいました。みんながおねえさんみたいにこまっているひとにやさしくすることができたら、いいとおもいます。わたしもおねえさんみたいに、わたしからみんなにやさしくしたいとおもいます。

久留米商工会議所会頭賞

おばあちゃんがとまりにきた日

久留米市立津福小学校 五年 佐伯 茉香

私のおばあちゃんは、病気で何でも一人ですることが出来ません。そのため私は、いろんなことを手伝っています。

私のおばあちゃんは、うまく歩けません。そのため手をつないで一緒に歩きます。たとえばスーパーへ買い物へ行った時、ちよつとしただん差で転びそうになります。私はつまずかないように声をかけたり、ゆっくり歩いたり工夫をしています。

ごはんの時は、おばあちゃんは、すぐに動くことが出来ないため、おかずをならべたり、おはしを用意したりします。その時、おばあちゃんは笑顔でありがとうと言ってくれます。それを聞いて私は、うれしくなります。

少し大変なのは、お風呂です。おばあちゃんはお風呂に入れないので家にとまる時は、私とお風呂に入ります。おばあちゃんの背中は大きいので洗にくいけれど、いっしょうけんめいすみまで洗います。洗っているとおばあちゃんは、とても気持ちいいと笑顔で言ってくれます。おばあちゃんの笑顔を見ると、やってよかったと思います。でも頭を洗うのは、とてもむずかしいため、お母さんにやってもらいます。

わたしはおばあちゃんのお世話が大変だなと思います。だけどこまっているおばあちゃんを助けたいと言う気持ちがあります。

おばあちゃんのお世話をして手伝うと言うことは、むずかしいと思いました。

自分にできない時は、周りの人達に助けをもらうこともあります。だけど、「ありがとう」と言われると、いつも最後までしてよかったなあと 생각합니다。

これから私は、おばあちゃんだけではなくほかの人がこまっていたら、自分にできることを見つけて、助けていけたらなあと思います。そして、いろんな人に

親切にできるようにこれからもがんばっていきたいと思います。

毎日新聞社賞

車いすのおじいさん

久留米市立南薫小学校 四年 森 和奏

わたしが、友達と二人であそんでいたとき、車いすのおじいさんが、歩道でうごけなくなっていました。

わたしと友達は、最初は、知らないおじいさんなので、

「少しこわいね。」

と話していましたが、おじいさんの車いすは、大きな車を通る道に曲がることができず、こまっていました。

わたしは、友達と、ゆう気を出しておじいさんに声をかけました。

「てつだいしましょうか。」

まだこの時は、こわい気持ちでした。

そして、友達と二人でおじいさんの車いすをおしました。

車いすは、二人でおしてもおもくて、道はガタガタしていました。

車いすの後ろを二人で手わけして、力をいれておしつづけましたが、車いすはなかなか曲がりません。二人で声をかけ合いながら、右に力をいれたり左に力をいれたりしながら、なんとかまがることができました。

その後も、おじいさんの家まで、何度か曲がりながら、友達とがんばっておじいさんの家の前につきました。

おじいさんが

「ありがとう、もういいよ。」

と言ってくれたので二人で帰ることにしましたが、おじいさんが心ばいで、しばらく見ていると、少し進んだおじいさんは、またうごけなくなりました。

おじいさんは、小さなだんさにひっかかっていたので、もう一度二人でおじいさんの所にもどりました。

車いすは、小さなだんきでも、力が必要でした。友達と二人で力を合わせてだんきをのりこえました。おじいさんはぶじに家に帰りました。わたしと友達は、とつてもつかれましたが、やつてよかったですと思いました。

西日本新聞社賞

「ぼくのおん返し」

久留米市立荒木小学校 五年 石橋 結心

ぼくは、小学校一年生の時にペルテス病という病気になりました。ペルテス病というのは、大たいこつつけ根の末たん部分に血りゆうが行かず、ほねがくさってしまふ病気です。男の子に起こりやすいですが、原因はいまだにはつきりとは分かっていません。

ぼくは最初に、右足のひざがいたくなり病院に行つたのですが、成長つうだと言われました。ですが、し

だいにいたみがひどくなつていつて、いたい部分が最初はひざだったのがだんだん、太ももの部分からこ関節の辺りにまで、広がつていきました。そのため、そのころには無意しきに右足を引きずつて、歩くようになつていました。その様子に気がついたお母さんが、「ただの成長つうで、ここまですたがるのはおかしいんじゃない。」と言つたことがきつかけになつて、もう一度病院に行つてみることにになりました。そして、調べてもらつた結果、右足がペルテス病にかかつていました。そして、ちりようのためにそう具をはめて生活することになり、学校では転とう防止のためと、もうかた方の負たんを減らすために車イスも使用することになりました。

車イスなども使用する生活になつてからは、今までも気にも留めなかつた、小さな段差や階段、じやり道やアスファルトなどの不安定な場所、また、これまでは当たり前に出ていた、戸びらの開け閉めや教室の中での移動、学校への登下校、さらには、手に荷物を持ちながらの移動など、他にもたくさんのが車イス

を使う上でかべになったり、自分一人では乗りこえられないくらい、むずかしいと感じるようになったりしました。

その中でも、一番大変だと思ったことは、トイレをすることです。いつも使っていたトイレでは、もちろんすることがむずかしくなったので、多目的トイレを使えるようにしてもらっていました。

このように、ぼくには自分ひとりじゃ出来ないことがたくさんありました。でも、同じクラスの友達や違うクラスの友達、さらには、たんにんの先生や他の先生達など、周りの人達が「車イスをおそうか。」「荷物を持つとうか。」「何か手伝えることある。」などの声をかけてくれました。そして、声かけだけではなく、じつさいに車イスをおしてもらったり荷物を持ってもらったり、戸びらを開け閉めしてもらったり、移動しやすいうように教室を一階にしてもらったりしてもらいました。ぼくは、そんな周りの人達の支えに、とても助けられて、今ではそう具と車イスを使わずにすごすことが出来るようになりました。

だから、これからは今までしてもらってきた、たくさんのお親切をかえすために、ぼくは周りをよく見て困っている人を見かけたら進んで声をかけていこうと思います。

朝日新聞社賞

ヘルプマーク

久留米市立荒木小学校 五年 青柳 美遥

私は、小学五年生の初めに、一人でバスに乗ってじゆくに行っていました。私は席が空いているときに乗れたので、すわっていました。そして、そのときちょうど西鉄久留米駅についたときだったのでしばらくしたら人でいっぱいになって、すわれる席もなくなりました。そのときに一人のおじいさんがバスに乗ってきました。そのおじいさんは背負っていたリュックにヘルプマークをつけていました。だけどすわれる席がない

のでずっと立ったままになっていました。私は最初そのことに気づかず、ずっとすわっていました。けどしばらくして私はそのおじいさんがヘルプマークをつけていることに気づきました。私は、席をゆずろうと思ったけれど、自分から知らない人に行くのは苦手なので、最初どうしたらいいかわからなくなりました。けどゆずらないと、そのおじいさんが大変だと思ったので、席を立ててゆずりに行きました。話に行くのはきんちようしたし、こわかったけれど、おじいさんに

「よかったらどうぞ。」

と言いに行きました。そしたらおじいさんがすごくうれしそうな顔をして

「いいんですか？ありがとうございます。」

と言って席にすわってくれました。そのとき私は、最初はこわかったけれど、席をゆずれてよかったなと思いました。そして、そのおじいさんがパスをおりるとき、私の方を見て、大きい声で

「席をゆずっていただきありがとうございます。」

とすごくうれしそうに言ってくださいました。そのとき、大きな声で言われたので、バスの中にいた人たちにたくさん見られてはざかしかったけれど、とてもうれしかったです。

私はこの事を体験して、もっともっといろいろな人にヘルプマークのことを知ってほしいなと思いました。私がスマホでSNSを利用しているときもたまに、ヘルプマークのことを紹介しているものなどを見かけたりするけれど、時々ヘルプマークというものを初めて知ったという人たちもいたので、知らないヘルプマークの意味がなくなってしまうし、そういう障害を持っている方たちが生活しづらい環境になってしまうんじゃないかと思うので、ヘルプマークのことをいろいろな人に知ってほしいです。そして、ヘルプマークをつけている人たちを見かけたりしたら、声をかける人がほとんど一人でも増えていったらいいなと思っています。

挨拶

久留米市立安武小学校 五年 真木 蒼大

ぼくは毎日当たり前のようになっている笑顔で元気に挨拶することが実はとても親切だと気づきました。その理由は四つあり、自分にも相手にも良いえいきょうをあたえることができると思います。

一つ目は自分が元気な気持ちになります。失敗したり、いやなことがあったりして落ちこんでいる時、友達が笑顔で挨拶してくれると今日も一日がんばろうと思えるからです。

二つ目は、自分が笑顔で元気に挨拶することで、相手を笑顔にして自分自身も心がほっこりとしうれしい気持ちになります。その一日を楽しく幸せに過ごせるきっかけになると思います。

三つ目は、コミュニケーションのきっかけになるこ

とです。挨拶をし合うことで仲良くなるきっかけになります。人見知りの人は自分から挨拶することが苦手だったりしますが、おたがいが挨拶することでよりが近づき、仲良くなる一歩になるんじゃないでしょうか。

四つ目は、自己肯定感の向上です。挨拶をすることで、相手から返事が返ってくるので、受け入れられたと感じ、そのままの自分で良いと思いつ自分から挑戦できる一歩になると思います。

今回親切とは何かというのを考えてより挨拶が大切だということがわかりました。挨拶されていやな気持ちになる人は、ほとんどいないと思います。笑顔で元気に挨拶をすることでコミュニケーションのきっかけになりおたがいのことを大切にしたい関係性が生まれると思います。そして一日がんばろうとするエネルギーになります。ただ自分から挨拶するのが苦手な人もいること、誰でも簡単にできることではないかもしれないとも思いました。なのでぼくは、誰にでも自分から笑顔で元氣よく挨拶をするように心がけ友達や

いろいろな人たちに元気と優しい気持ちを伝えていきたいと思いました。

時事通信社賞

小さな親切が つなぐ心

久留米市立荒木小学校 五年 堤 りお

ある夏の日のことです。私は学校からの帰り道、ゼブンの前でこまっているおばあさんを見かけました。大きな荷物も抱えて、足元が、おぼつかない様子でした。通りすがりの人たちは気にする様子もなく通り過ぎていきます。私は、少し迷いました。「声をかけてもいいのかな」「もし断られたらどうしよう」そんな不安もありました。でも、見て見ぬふりはできませんでした。思いきって「荷物、お持ちしましょうか?」と声をかけてみました。おばあさんは、少しおどろいた顔で、「ありがとう、やさしいね」と言っていました。私

は、ほつとして、「いえいえ」とにっこりして、おばあさんの荷物をもちました。おばあさんの家が少しちかかったので「家まで、もちますよ」といいました。おばあさんは、にこにこわらいながら「ありがとうね、やさしい子だね」と言ってくれました。私はなんだかととてもあたたかい気持ちに、なりました。帰ってきた時も、すぐうれしくて、あたたかい気持ちに、なりました。次の日、学校で友だちが教科書を落としてしまったときも、私は、すぐに拾ってわたしました。友だちは、「ありがとう!」と言ってくれて、ちょっと、はさかしそうに、わらつてくれました。そんな小さな、できごとでも、心が、ほかほかするような気がして「親切って小さなできごとでも、とても心が、ほかほかするんだ!」と思つて、にっこりになりました。それから、エレベーターで、ドアをおさえたり道に落ちていたゴミを、ひろったり、小さい子が、ころんだりしていたら、やさしくたいおうしたりして、自分に、できることをさがすように、なりました。小さな親切でも、されるとうれしいし、するほうも気もちが、よく

なることが、分かりました。大きなことはできないけれど、小さな親切をつづけていけば、まわりの人もえがおになって、世界が少しだけ、あかるくなるかもしれない。これからも、私は「小さな親切」をととても大切に、していきたいです。



入 選

小さな親切は大きな笑顔

久留米市立津福小学校 五年 平野 衣緒理

一年生の頃、私が津福小学校に行くときの行き事でした。

私は一人で津福小に向かっていました。始業式のときは車で送ってもらったので、あまり津福小への道を覚えていませんでした。心細さと一緒になんとなく歩いていたら、分かれ道があり、「どっちに行けばいいかな。」と分からなくなっていました。私が涙目になって棒立ちになっているとき、ランドセルを背負った背の高い人が横を通りかかりました。その人は、私が何も言っていないのに優しく手をつないでくれて、津福小まで案内してくれました。私はその人と津福小に着くまでおしゃべりしていました。「動物」のことや、「自分の特技」や「好きなもの」など、とても明るい雰囲気

気になりました。その人と一緒にいるだけで、さっきまでの心細さは吹っ飛んでいきました。一人で行っていただけ、喋り相手ができただけだったのでとても楽しくなりました。その人とおしゃべりしていると津福小にくまであつというまでした。

津福小に着き、その人とバイバイしてふと、私は「なんであの人は私が津福小に通っていることが分かったのかな？」とぎ問に思いました。少し考えた後、思いました。「あー分かったぞ。一年生はみんなランドセルカバーにクルツパが描かれていて『交通安全津福小学校』と書かれているんだ！」と考えているうちに案内してくれたさっきの人が

「じゃあ、お兄ちゃんはどう行くね？一人で大いじょうぶ。」

と最後まで心配してくれました。その人は、六年生のくつ箱に行ったので、六年生のお兄ちゃんということが分かりました。「私も人を助けられる立っぱな人になりたいな。」と思いました。私は六年生のお兄ちゃんと話しているときを思い出すたびに、とっても笑顔にな

りました。

それから五年が経ち、私は五年生になりました。私には親せきがいっぱいいます。一年生のときは一人で登校していたので、さびしかったけれど今は、一緒に学校に行ってくれる子がとつてもいるので登校時間が楽しいです！一年生のときの出来事を経験して、人のニコツとした明るい笑顔が好きになりました。一、二年生のときは助けてもらえばかりだったけれど、もう高学年なので「自分から手助けできるような人」になれるように今も、進んで親切することを目標にがんばっていきます！



入選

思いやりの気持ち

久留米市立篠山小学校 五年 高橋 慶一郎

ぼくは、二年前に足を骨折しました。そのため、三か月間、松葉つえや車いすを使って生活していました。いつもかん単に出来ていたことが出来なくて、大変だなと思うことがたくさんありました。

一つ目は、学校の階だんです。それまでは、階だんをあつという間に上って教室まで着いていたのに、松葉つえで階だんを上ると、一だん上るだけでも時間がかかってしまいます。初めて上ったときは、教室に着くまでにつかれてしまいました。でも、その日学校が終わって、ぼくが階だんに向かってしていると、友達がかけてよってきて、

「ぼくが、荷物持つよ。」
と言って、重いランドセルや荷物を持ってくれました。

おかげでぼくは、とても楽に階だんを下りることができました。ぼくが何も言っていないのに、進んで荷物を持ってくれた友達のやさしさがとてもうれしかったです。

二つ目は、車いすで歩道を進むのが、思ったよりむずかしいことです。少しのだん差やゆるやかな坂道でも、通る時にはとても力が必要でした。自分だけではなかなか上れなかったので、父に車いすをおしてもらいました。また、人が多い場所やせまい場所では、車いすでの移動はとても大変でした。道が合流するところでは、大人たちが全然道をゆずってくれなくて、長い間前に進むことが出来ませんでした。この時ぼくは、道をゆずってほしいと言うこともできませんでした。くやくして悲しい気持ちになりました。そして、他の人に同じ思いをさせたくないなと思いました。

ぼくは、骨折してつらかったけれど、そのおかげで、色々なことを学ぶことができました。こまっている人は、ぼくみたいに助けてほしいと言えないかもしれないので、気づいたら声をかけるようにしています。こ

入選

まってる人が、悲しい気持ちではなくてうれしい気持ちになれるように、今は積極的に協力しています。ほくは、これからも、この思いやりの気持ちを忘れないうでいようと思います。

町をきれいに

久留米市立篠山小学校 五年 轟 佳子

私は、休日の朝に公園へ行ってお父さんとゴミ拾いをしました。

公園にはおかしのふくろやたばこのすいがら、あきカン、ぼうし、水筒などたくさんさんのゴミが一度に出てきました。ゴミがふくろにすべておさまらず、マンションにゴミを捨てるのが大変でした。

私はゴミを拾っているときに思いました。ゴミが増えていくことによって生き物に悪いいきょうをあた

えるものだと。

理由はゴミを放置しておくで菌がはんしよくしてそれを人間や動物がふれたりすると菌がうつって病気になるかもしれないからです。

水筒やぼうしなどが忘れてあったりしたので忘れ物がなくなるように、持ち物を確認してから家に帰ってほしいです。

公園では大人が捨てた物もありました。その中でも一番多い物はたばこのすいがらです。

たばこのすいからが道のはじや公園の草の中にあつたり、色々なところに落ちていました。しよ理をせずで火事になったら、大変なことになるから気をつけてほしいです。

私の家のとなりにマンションが建つので、公園をきれいにしてみんなが気持ちよくすごせるようにしていきたいです。

そのために、ゴミは自分の家で捨てるように呼びかけて、自分もゴミはしっかり分別し、ゴミ拾いをこれからも続けるという努力をしっかりと守っていききたいで

す。

これからは、ゴミを色々なところに捨てる人を一人でも多くへらして、まずは、自分の家や学校などの身のまわりのゴミをへらしていきます。

その次からは、公園から地いき、地いきから町、とほんいをどんどん広げてゴミ拾いのボランティアにも参加して、小さいゴミも見のがさないようにしていきたいです。

SDGsには、「陸の豊かさも守ろう」という言葉もあります。

だから、ゴミをへらすことにつながるので、ゴミをへらすという目標をつくって、SDGsにこうけんしていききたいです。

また、まわりの町から、みりよくてきな町だと思ってもらえるようにがんばっていききたいです。

入 選

クラスのみんなありがとう

久留米市立津福小学校 五年 津田 珠希

わたしは、四年生の冬に、左足の中足こつと言うところをこつ折しました。病院でこつ折と言われたとき、明日からの学校はどうなるのだろうと思いました。病院で足にギプスをして、松葉づえを使って歩く練習や、階段を上る練習をしました。わたしは、歩くことはできたけれど、何回練習しても、階段を上ることができませんでした。四年生の教室は三階にあり、学校にはエレベーターがないので、学校に行くのがとても不安になりました。

次の日、学校まではお母さんが車で送ってくれました。すると、先生が心配して来てくれて、荷物を教室まで持って行ってくれました。不安だった階段さんは、病院よりも高さが低かったのと、友達が「がんばれ。」

と、応えんしてくれたおかげで、何とか上ることができました。教室に着いたら、クラスのみんなが、教科書やノートを持ってきてくれたり、給食当番を代わってくれたり、わたしの給食を持ってきてくれたりと、親切にしてくれました。休み時間には、遊びに行きたいはずなのに、「何か手伝うことある?」「持ってくるものがあつたら言つてね。」と、声をかけてくれました。帰る時には、準備を手伝ってくれ、自分のランドセルをからつて、わたしのランドセルを車まで運んでくれました。

次の日からは、仲良しの友達が毎朝寒い中、くつ箱の前でわたしが来るのを待っていてくれました。わたしが来たら車まで走つて来て、わたしの荷物を持ち、教室まで一しよに行つてくれました。それを、約束したわけでもないのに、毎日文句を言わずに続けてくれました。わたしは、こんなにもわたしのことを考えて親切にしてくれる友達がいるんだと思い、とてもうれしくなりました。

わたしは、総合のじゅ業で習つた身体が不自由な人

達のことを思い出しました。手や足が不自由な人、目が見えない人、耳が聞こえない人、身体が動かしにくいお年よりの人達は、毎日どれだけ大変な思いをしているのだらうと思いました。わたしは左足のこつ折だつたので、両手と右足は動かせなし、三週間で治つてギプスを外して歩いていいと言われたけれど、身体が不自由な人達は、ずっと大変な思いをしてすごさないといいません。そこで、わたしにできることは何だらうと考えました。そして、わたしがこつ折したときにみんなに助けもらつたように、次はわたしが親切にする番だと思いました。

わたしはこれから、手や足が不自由な人、目が見えない人、耳が聞こえない人、お年よりや、困っている人を見かけたら、わたしがみんなに親切にしてもらつたことを思い出し、自分から声をかけたり、困っている人の立場に立つて、みんなに親切にできるやさしい人になりたいと思いました。

入選

心があたたまる小さな親切

久留米市立荒木小学校 五年 野田 ゆづき

小さな親切は、だれにでもできて、だれにとっても大切で必要なことだと思います。毎日の生活の中で、ちよつとした手助けや気づきがある、みんながうれしく、あたたかい気持ちになると思います。だから私も小さな親切を心がけたいです。

一年前、お家のエントランスでドアを開けられずに困っているおばあさんを見かけました。そのおばあさんはカギを持っていなかったようで、何回も電話をかけていましたが、留守だったのか反応がありませんでした。「これは助けないといけない」と思った私は、別の入口から入り、ドアを開けてあげました。おばあさんは少し話しくそいな様子で、何と言っているのかははっきりわかりませんでした。が小さなおじぎをして

くれて、感謝の気持ちが伝わりました。

その後、私はおばあさんが心配になって、一緒にお家までついていきました。すると、おどろいたことにそのおばあさんは私の家のおとなりに住んでいた方だったので。とてもびっくりしましたが、ちよつぴりうれしくもなりました。おばあさんとはそこでおじぎをして別れました。

そのときほとにかく「助けないと」という気持ちで動いていました。でも、おばあさんの「ありがとう」という気持ちがちゃんと伝わってきて、私のむねがじんわりあたたかくなりました。言葉がなくても、気持ちはちゃんと伝わるんだなと感じました。だからこれからもまわりをよく見て、困っている人がいたらすぐに気づけるようになりたいです。

家に帰ってから、お母さんに今日あったことを話すと、「すごいじゃんよくできたね」と言ってくれて、少し照れくさくて、でもとてもうれしかったです。もしまた同じようなことがあったら、もっと自信をもって行動したいと思いました。

この経験を通して、小さな親切でも、相手にとって大きな助けになることがあると気づきました。これからも、困っている人を見かけたら、自分にできることを考えて、行動していきたいと思います。小さな親切が広がれば、みんなが幸せな気持ちになって、平和な世界になると信じています。小さな親切は、特別なことではなく、毎日の中にあるものだと思います。たとえば、落とし物を拾ってあげたり、重そうな荷物をもってあげたり、そんなちょっとしたことの積み重ねが、大きな力になると思います。私も、これからもっとまわりを見て、自分から進んで動ける人になりたいです。



入 選

だれかのために

久留米市立荒木小学校 五年 三堂 加乃

わたしはうれしかったことがあります。それは、わたしがやりたいと思ったことに友達が付き合ってくれたからです。

中休みに手を洗おうとすると、手洗い場の所々に絵の具がついていることに気が付きました。

わたしが、

「そうじをしたい！」

と、言うと友達が、

「それじゃあ、わたしもする。」

と、言ってくれました。

わたしは、その子が中休みに何かやりたいことがあるのではないかと不安になりました。ですが、手伝ってくれると思うとうれしくなりました。

そして、二人で手洗い場をそうじすると、気になつていた絵の具を消すことができました。わたしは、達成感がこみ上げてきました。なぜなら、みんなが使う場所を少しでもきれいにできたからです。それに、みんなの役に立てられてうれしいと思いました。だけど、わたしだけではなく、いっしょに友達もしてくれたので、二人の成果だと思います。ですが、友達にありがとうと言えませんでした。次は、うれしかった気持ちを伝えられたらいいと思いました。

わたしは、その友達のようなことをしたいと思いました。なぜかというと、自分がうれしいと思ったことをちがう人にもしたら、喜んでくれるかもしれないと思ったからです。用事があつたりいそがしかったりしている時は仕方がないと思いますが、それ以外の時は、付き合ったりしたいと思います。

そして、もう一つやりたいと思うことができました。それは、だれかのために小さいことでもいいのでやることです。例えば、ごみをごみ箱に捨てたり、くつをならべたり、クラスの仕事で手伝ったほうがいいと思っ

たことなどをしてみたいです。それに、気付いてくれているかは分からなくてもいいと思います。なぜなら、きつとみんなも何かしていると思うし、だれかがうれしくなるだけでいいと思うからです。これから、がんばります！

入選

あいさつの大切さ

久留米市立荒木小学校 五年 伊豆 美沙希

あいさつは、友達や家族、先生など人と人との関係を良くするためにとても大切なものです。私たちは、毎日色々な人にあいさつを交わすことで、身のまわりの人などと気もちがよくコミュニケーションをとることが出来ます。あいさつをすることで、相手に対する思いやりや、あいさつをすることでした側もされた側も気もちよくさせてくれる力があると思います。

学校で、朝に登校する時に「おはようございます」や、「おはよう」というと、学校の友達も、先生も「おはようございます」とうれしそうに返してくれます。

この「おはようございます」というあいさつの言葉一言あることで、学校の始まりがすこく明るく感じられます。そして教室に入り、席に着くと、となりの席の人から、「おはようございます」といわれたり、それに返してあいさつを言うことで、教室のみんなが気もちよく授業に取り組めやすくなります。

また、学校がおわって友達や先生に「さようなら」や「バイバイ」などいうことで、学校がおわり、また明日学校で会おうね、とあいさつだけで伝わります。そして家に帰り、「ただいま」と私が言い、「おかえり」と返してくれる会話は、私にとって大切な時間です。家族のだけれが「おかえり」と返してくれるとうれしいし、安心感を感じます。家であいさつをすることで、家族と私の間で絆が深まるような気がします。

その他に、ねる前に、家族に「おやすみなさい」や「おやすみ」などねる前に言うことで、今からねるこ

とを「おやすみなさい」のあいさつで伝えることができ、家族も「おやすみ」と返してくれるので家族も私も安心できます。

あいさつは、身のまわりにいる友達や先生、家族とのきよりや関係をちぢめることができ、良い関係を作る第一歩です。例えば、私たちと同じ地域に住んでいる知らない人に、「こんにちは」と言うと、同じ地域に住んでいる人のほとんどは、笑顔で「こんにちは」とやさしく返してくれる人が多いです。そんな時、少しだけ心が温かくなるような気がします。また、感謝の気持ちを表せられる「ありがとうございます」や「すみません」などの言葉も、あいさつと同じように人間関係を良くするすこく大切な言葉だと思えます。

これからも、私は毎日あいさつを忘れずにして、大切にしていきたいと思います。あいさつは、ただの言葉ではなくて、相手への思いやりや、あいさつをすることでした側もされた側も気もちよくさせて伝える手段だと感じています。もつと多くの人々と気持ちよくコミュニケーションを取れるようになるために、明る

く相手を元気にさせるようなあいさつを心がけて、身のまわりの友達や先生、家族と仲良く過ごしていきたいと思います。

入選

しあわせな親切

小郡市立東野小学校 三年 甲斐田 彩佳

わたしは、友だちや家ぞくを大切にすることが親切につながると 생각합니다。まわりの人を大切にすることは、思いやることになって、それがどんどん広がっていくと、まわりの人もやさしい気持ちになっていくと思います。そして、親切は、みんなを元気づけたり、安心させたり、うれしくすることだと思います。親切にされた人は、心が温かい気持ちになると思います。ある日、小学校の昼休みに運動場で、友だちがころんで、けがをしていました。わたしは、気がついて、

けがをしていた友だちに、

「だいじょうぶ。」

と声をかけて、一しよにほけん室に行きました。けがをした友だちが、

「ありがとう。」

と言ってくれて、うれしい気持ちになったし、また友だちが何かこまっていたら、助けたいと思いました。

そのほかにも、友だちが、ふでばこを落とした時に、ふでばこをひろって、

「ひろってくれてありがとう。」

と言ってくれて、友だちは、うれしそうにいました。その友だちのうれしそうな様子を見て、わたしはうれしい気持ちになったし、行動してみてもよかったですと思いました。

わたしは、「ありがとう」という言葉は何と言われてもうれしいし、しあわせな気持ちになります。わたしは、心がふんわりしたので、言葉はすごい力があると感じました。そして、わたしは、まだ自分が知らない親切があると思いました。そのような親切を見つければ

れるように、まわりをよく見て、見つけたら、わたしもまねしてやってみたいと思います。

これからも、友だちや家ぞくやこまっている人がいたら、その人たちのことを考えて、行動したいと思います。そして、小さな親切が広がって、世界中の人たちまでとどくといいなと思います。

そのために、まずはわたしのまわりの人を大切にしていきたいと思います。家や学校でも、思いやりの気持ちをわすれずに、いろいろな人に小さな親切ができるようにしていきたいです。小さな親切のたねをふやしていけば、大きな花になって、世界中の人がしあわせな気持ちになると思います。



入 選

わたしがうれしかったこと

久留米市立鳥飼小学校 二年 末安 莉菜

わたしは、お世話になった大すきな先生たちにお手紙をわたすために、ようち園に行きました。先生たちは、いっしょにおりがみであそんでくれたり、かみのけをむすんでくれたり、いつもやさしくしてくれました。

ひさしぶりに会ったので、はずかしかったけれど、先生たちがよろこんでくれたのでお手紙をわたせてよかったです。

先生たちとお話していたら、三時のおやつの間になったので、わたしはようち園の小さなおともだちといっしょにおもちやおかたづけをてつだいました。そしたら先生が、

「りなちゃん、ありがとう。」

とほめてくれて、とてもうれしかったです。自分でもやくにたつことができなかなと思つてうれしかったです。わたしは、ようち園に行つてできることがあれば、またしたいなあと思ひました。

学校で、プリントやわからないことを教えてもらつたり、先生やお友だちからやさしくしてもらつたりしました。学しゆうを学んでわかるようになったら楽しくなりました。

きゆう食の時間、わたしが大きいおかずをおさらにつぐ当番の時に、ペアの子がお休みでした。一人でつぐのは大へんそうだなあと思つていたら、お友だちがさつと手つだいに来てくれました。わたしはふあんがなくなつて、とてもうれしい気もちになりました。

してもらつた親切はわたしの心の中のこつています。これからもわたしの小さな親切をもつともつと広げてみたいです。ほかの人やどうぶつにも親切をしてあげたいです。なぜなら、わたしが親切にしてもらつた時にとてもうれしかったからです。こまつている人や大へんそうな人を見かけたら、たすけてあげたいな

と思ひます。むりに親切はしなくてもいいけれど、小さな親切はみんなできると思ふので、やつてみてできるだけふやして、へいわをつなげていきたいです。

入 選

小さな親切

久留米市立安武小学校 五年 古川 葉椰

わたしは、「親切」つて、むずかしいことだと思つていました。大人がするような、大きなことをしないといけないんじゃないかと思つていたからです。でも、ある日わたしがした小さなことが、友だちのためになつたことがあつて、「小さな親切つてすてきだな」と思ふようになりました。

ある日、わたしは朝の会の前に、じゅんびをしていました。すると、となりの席の友だちが、ランドセルの中をゴソゴソ探していました。「どうしたの?」と聞

くと、「鉛筆が入ってない、家に忘れちゃったかも。」

と言いました。友だちは、鉛筆がない、と困ってしまいました。わたしは、筆箱を見たら、一つ鉛筆が多かったの、「一本貸そうか?」と言いました。友だちは元氣よく「いいの?ありがとう!」と言いました。その友だちはうれしそうにしていました。わたしは、鉛筆一本貸しただけです。でも、友だちがよろこんでくれて、わたしもうれしくなりました。こんな小さなことでも誰かの役に立ってるんだと気づきました。

その日からわたしは、毎日の生活の中で、小さな親切を大切にしようと思いました。たとえば、時間割が分からない子に教えてあげたり、黒板を消している友だちを手伝ったり、いすが出しっぱなしになっていたら直したりします。どれも小さなことですが、「ありがとう」と言ってもらえると、やってよかったなと思います。

親切は、「ありがとう」の気持ちのやりとりだと思えます。やさしい気もちが広がっていくのはとてもすてきなことです。

これからも小さな親切を大切に、毎日過ごしをいきたいと思います。

ある日、わたしが国語の授業のじゅんびをしていたら、友だちが「国語の教科書がない。家に忘れちゃったかも。」と言っていました。その友だちはとても困っていて、わたしは自分の教科書を机の真ん中に置いて、「一緒に見よう」と声をかけました。友だちは「ありがとう!」とうれしそうになりました。そんなふうに、少しの声かけや行動で、だれかの気持ちが楽になることがあるんだと感じました。

小さな親切は、いつでも、どこでもできることです。そして、わたしが親切にしたことで、相手がまた別の人にやさしくなれたら、それはもつとすてきなことだと思います。親切の輪が広がっていくと、みんなが気もちよくすごせるからです。

これからも、友だちや家族、先生など、わたしのまわりの人たちに、小さな親切をしていきたいと思います。自分も親切にされるとうれいように相手の気持ちを考えて行動できるようにしたいと思います。



第32回くるめ「小さな親切」運動の会主催作文コンクール受賞作品

中学生の部

くるめ「小さな親切」運動の会会長賞

私の小さな親切

久留米信愛中学校 一年 阿南 恵璃花

私は小さい頃、髪の毛が長い女の子のキャラクターが大好きで、ずっと切らずに髪の毛を伸ばしていました。

小学生の頃に、たまたま見かけたニュースで「医療用ウィッグ」という存在を知りました。がん治療やその他の病気やケガなどで髪の毛が無くなった子供達に自分の髪の毛を提供して自然な感じのウィッグを作り、届けることができるそうです。もらった人は、とても嬉しそうにしていたのが印象的でした。

私の髪の毛も役にたてられたらいいなと思い、まずはヘアドネーションのことをきちんと知ろうと思い、インターネットで調べてみました。十八才以下の子供へ小児用医療ウィッグを無料で提供している「JHD

&C」という大阪にあるNPO法人を見つけました。

ホームページを見ていたら、三十一センチ以上の髪の毛であること、切った髪の毛の送り方など色々説明がされていました。その中に、スーパーロングウィッグに必要な長さとして書いてあるところがありました。私のようにロングヘアーにあげられている女の子に届くというのと思って、目標は六十センチ以上にしました。お尻のあたりまで伸びた頃に長さを測り、目標の長さをこえていたので切ることにしました。切った髪の毛の一番長い部分は七十七センチもありました。ずっと長い髪の毛だったので、切った日の夜の洗髪はすごく軽く、違和感だらけだったけれど、心が嬉しい違和感でした。ちょっとほこらしくもありました。

医療用ウィッグは、一人からの髪の毛ではできないので、一つのウィッグを作るためには、三十人から五十人分の髪の毛が必要になるそうです。一人の髪からできると思っていたのでビックリしました。私と同じ思いの人の「小さな親切」がたくさん集まって、一人の人が喜んでくれるのは、なんだかとても素敵なことだ

なと思います。

初めてのへアドネーションから三年後、二度目のへアドネーションもしました。三度目は、まだ少し先になりそうだけれど、病氣とたたかっている人の役にたてるように、また伸ばしていきたいと思っています。

久留米市長賞

「親切心」とは何か

久留米市立宮ノ陣中学校 二年 平湯 夏蓮

小学六年生の十月頃、私は家族で温泉に行った。いつも行くところで今日も同じように体を洗って妹と母で湯船に浸かっていたときだった。突如悲鳴のような大きな声がお風呂場に響いた。私は驚き、声が上がった方を見ると、誰かが倒れていた。周りの人達は、声のする方へ集まり、すぐに人だかりができた。その状況を見ていた母が、様子を見に行った。すると、大き

な声で「大丈夫ですか」と尋ねる母の声が聞こえてきた。私はどうすればいいのか分からず、焦っていた。だが、冷静になって考えたとき、私は今自分のできることをしなければいけないと思い、人だかりができているところに近づこうとしていた妹の手を取って湯船を上がり、お風呂場を出た。

妹とお風呂場を出るとき、一瞬目を向けると、倒れている人の周りには、さっきよりも多くの人だかりができていた。AEDやタオルなどを持ってくる人、声を掛け合う人など一瞬でいろいろな役割に分かれ、必死に倒れている人を助けようと、一生懸命に動いていた。その中心に必死になって行動している母の姿が一瞬見えた。そんな母の姿を私は見たことがなかった。私は、母がかっこいいと思ったのと同時に、なぜ戸惑うことなくすぐに行動できるのかという疑問が思い浮かんだ。

二、三分後救急隊が到着し、お風呂場で倒れていた人が運ばれていった。しばらくしたあと、母がお風呂場から上がってきた。母は晴れやかな表情をしていた。

倒れた人は意識を取り戻し、無事ご家族と合流したようだった。なぜ母も、同時に周りに集まって助けようとしていた人も、知らない人同士なのにあんなに動けたのだろうか。「親切心」だからだろうか。私はその時答えが分からず、

「お母さん、すぐに行動できてすごいね。」

と母に言うと、

「普通のことをやっているだけだよ。すごいことじゃないよ。」

と微笑みながら優しく私に言った。そのときに私は気がついた。母は、「親切心」ではなく、ただただ目の前の人を助けようとする一心で行動していたということに。周りの人も自分ができる精一杯のことをして、結果的にその行動がその人を救った「親切心」につながったということ。

私達の生活の周りには、温かい心ある行動や言動が溢れている。日常に広がる優しく温かい言葉や行動の数々は、その人の「親切心」ではなく、その時にふと出た言葉や自然な行動なのかもしれない。その言葉や

行動の数々は、誰かの救いになるかもしれない。小さな行動や言動でもいい。目の前の困っている人に優しく手を差し伸べることでできる人になりたい。そして、いつかは母のように、どんな状況でも誰かを助けるために、すぐに行動できる人になりたい。

久留米市議会議長賞

親切の恩返し

久留米市立筑邦西中学校 一年 熊脇 勇太

ぼくの祖父母は少し遠い町に住んでいます。最近はなかなか会う機会がありません。だけど、ぼくが小さなころは、なにかあればすぐにかけつけてくれたし、ぼくもよく会いに行っていました。祖父は少しきびしい所があるけれど、ぼくのやりたいことを実現させてくれる人です。祖母は優しく、いつもぼくの味方になってくれる人です。

そんな祖父母とぼくが小さいころ、こんなことがありました。ぼくは小さいころ、何度も入院をくり返していました。そのころぼくはまだ一歳未満だったので祖母が毎日つきそって来ていたそうです。母から聞いた話なのですが、すごくぼくを心配してずっと

「大丈夫、きつと治るよ！」

と、声をかけてくれていたそうです。おどろいたことに祖母はほくにだけでなく同じ部屋に入院しているお母さんや赤ちゃんにも同じような言葉をかけていたそうです。ぼくは、その話を聞いて祖母は、とても親切で優しい心を持った人だなと思いました。ぼくだったら、見ず知らずの人には恥ずかしくて話しかけれないと思います。その言葉をかけられたお母さんは、とてもうれしかったそうで、祖母の小さな親切が伝わったんだなと思いました。

祖父のほうは、毎日ぼくの母に電話をし、

「勇太もがんばってる大丈夫！」

と、言っていたそうです。母は、ぼくの入院をすごく心配して不安だったようですが祖父のこの言葉を聞いて

てすこし安心することができたそうです。これもまた、祖父の小さな親切が伝わったんだなと思いました。

あれから十二年が過ぎ、ぼくは中学生になり、祖母と祖父は年をとりました。先日、祖母が庭で石につまずいて倒れ、うでの骨を折ってしまうことがありました。手術をしなくてはいけないということで、病院に入院することになりました。骨を折ったうでは、右うでだったので、とても不自由で料理が大好きだった祖母はそれができなくなるととても悲しそうでした。祖父のほうも祖母が入院することで一人で行くことになりとてもさびしうに見えました。また、何でも一人でやらなければならなくなり大変そうでした。

そこでぼくは、祖父母のためになにかできないかと考えました。まず祖母には、お見まいに行ったり、電話をして声をかけたりしました。祖母はとても、よろこんでくれました。次に祖父には、家に会いに行ったり、ごはんの準備を手伝ったりしました。祖父はとてもうれしうでした。

ぼくは、小さいころから祖父母にたくさん親切にし

てもらいました。だからほくも祖父母に同じくらい親切を返そうと思ったのです。今後、ほくは、祖父母だけでなく、いろいろな人へ親切の恩返しができればいいなと思います。

久留米市教育委員会教育長賞

「少しの勇氣」

大牟田市立宅峰中学校 一年 尾山 由奈

私は前から、目立つことがあまり好きではありませんでした。それは今も変わっていません。褒められるときも、失敗をしてしまったときも同じでした。ほかの人の目線が全部私に向いていると思うと、どんな言葉を話したらいいのか分からなくなってしまうのです。小学校低学年の時、そんな私の考え方が変わる出来事が訪れました。そのころ同じクラスの友達が腕を骨折し、ギプスをはめている状態でした。そしてその日

の給食のデザートはみかん。ギプスをはめている人がみかんの皮を剥けないのは、骨折したことがない私でも少し考えれば分かることでした。私はすぐ「代わりに剥いてあげなくちゃ」と思いました。でもそれを行うに移すことはなかなか出来ませんでした。なぜなら、私とその子との席は少し離れており、給食時間のシーンとしている中、音を立てて立ち、声をかけるのはとても勇氣のいることだったからです。それにその子も、自分が食べるものを触られるのが嫌だと思うかもしれないし、他の人が見ている中、断られるかもしれない。そんな色々なことが私の頭の中を駆け巡りました。私は、何をすることが正解なのか分からなくなりました。悩んだ私は、もしも私とその子の立場だったらどうしてほしいかを考えました。シーンとしている中、誰にも頼めず、誰かに気づいてほしいと思うのではないか。私と同じように不安に思っているのではないかと思いました。そして今まで私が迷っていた理由が消え去り、気持ちがあすつきりして気がついたら声をかけていました。するとその子はビックリしたような、少しほっ

としたような顔をして、私もつられてほっとしました。
その子は、笑顔で、

「ありがとうございます。」

と言ってくれました。とても小さな出来事だったけれど、その日は一日中心が軽くなり、なんだか温かい気持ちになりました。私は勇気を出して心から良かったと思いました。

私は怖がりです。それは昔も今も変わりません。でも、それを変えていくのは自分自身です。そのためには、一つ一つの小さなことにも勇気を出して行動していくことが大切だと思います。この出来事は数年たった今でも鮮明に思い出すことが出来ます。それはこの事をきっかけに、行動することを心掛けるようになったからだと思います。私はこれまでこのような出来事で、ああしておけばよかったと勇気が出せずに後悔したことが何度もありました。でも、その時々悩んで迷い、次の行動に変えていくことで、結果的に自分自身が成長できると思えました。

久留米市社会福祉協議会会長賞

静かな優しさに気づいた日

大牟田市立宅峰中学校 二年 森崎 子湖

「ビュービュー」と自分ごと吹き飛んでしまいそうな強風の日、私は急いでテニスコートに向かっていた。駐輪場に着くと、他の人の自転車が倒れているのが目に入った。風のせいだろう、と思い私は「またか。」とため息をつき自転車を起こした。起こしてあげたのに誰からも感謝されずに少しモヤモヤした気持ちのままみんなのいる部室へ急いだ。

「休め、気をつけ、礼。お願いします。」

とあいさつをし、部活を始めて、さっきの自転車のことはほとんど忘れていて、一生懸命部活を頑張った。

「みんな、休憩！」

と部長が言い、みんな水を飲んだり、トイレに行く人もいて私も水を飲んでみんなと雑談をしていた。

「今日風強すぎて全然サーブ入らんね。」

「わかる。今日全然サーブ入らん。」

と話しているうちに練習に戻る時間になった。すると突然「ガシャン」という何かが倒れた音がした。音があった方を見るとたくさん自転車が倒れていた。しかし、すぐに起こしに行ける状況ではなく、そのままコートに立っているしかできなかった。

次の休憩になり、自転車を起こしに行こうと駐輪場へ向かった。でも、一台も自転車が倒れておらずにきれいに並べられていた。それを見て私はとてもうれしかった。だけど、誰が起こしてくれたのか分からず、少し感謝できないモヤモヤが残っていた。あの時の風で倒れた自転車は十台以上あっただろうに文句一つ言わず全てきれいに並べてあるのを見て私はすごく感動した。私だったら誰か手伝ってくれてもいいじゃん、っと思ってしまおうと思う。私は目の前で親切にされる方が何十倍もうれしいと思った。

このような目に見えない親切は日常の中に静かに存在していて、そよ風のようにさっと消えてしまう。だ

けどその目に見えない親切はきつと必ず誰かの心に届いていると思う。だから、今度は私が誰かの自転車をそっと起こしてみよう。気づかれなくてもただ、優しさのバトンを繋いでいきたい。私が思う本当の親切は目に見えないものである。目に見えない親切は人に気づかれず自分だけの苦勞だと思う人もいると思う。だけど人にしてあげた親切は絶対自分に返ってくると思っている。その親切をみんなに広げて、たくさん笑顔でこの世の中を満たしていきたい。

久留米市ふれあい都市推進協議会会長賞

「小さな親切」

大牟田市立宅峰中学校 一年 北原 実祈

四月、わたしは、宅峰中学校に入学しました。入学式の日、友達の日ちゃんと待ち合わせをして登校しました。日ちゃんは、小学校六年間も、同じ登校班で通っ

た友達です。ワクワクしたうれしい気持ちより、緊張と不安でドキドキしている気持ちの方が大きかったのを、今でも覚えています。それから、毎日、Hちゃんといっしょに登校していました。

学校生活にも、少しずつ慣れてきました。ですが、それと同時に、ちよつとずつちよつとずつ、言葉にできないような気持ちもあって、ある日、学校を休んでしまいました。それからというもの、学校に行ける日もあれば、お休みする日があったり、遅れて行く日があったりもしました。できるだけ、Hちゃんが、家を出る前に、連絡しようと思っっていますが、時々、連絡できないことがあって、「Hちゃん、ごめんね。」と心の中で謝っていました。しばらくお休みが続いた時、Hちゃんから連絡をもらいました。Hちゃんが、「また、一緒に行ける時に、行こうね。」と言ってくれました。その一言が、わたしにとっては、すごくうれしくて、救われた気持ちになりました。

前の日の夜は「明日は学校に行こう。」と思っても、朝になると「どうしても行けない。」と思うこともあっ

て、Hちゃんには、すごく悪いなあと思うこともありませんが、「一緒に行ける時に行こう」と言ってくれたHちゃんの優しい一言は、わたしの心の中で、ずっと響いています。落ちこむ日もあるけれど、この一言を思い出すと、心がぼわんとあたたかくなることもありま

す。

わたしも、Hちゃんがしてくれたように、優しい一言をかけられるようになっていっています。友達からは優しい一言を心がけたいと思っています。仕事がいそがしいお父さん、いつも家族のためにごはんを作ってくれるお母さん、四月から一人ぐらしを始めた上のお姉ちゃん、お勉強をがんばっている下のお姉ちゃん、みんなのことが大好きだから、家族みんなに、優しい一言をかけられるわたしであります。

わたしには、好きな言葉がいくつかあります。「努力」「楽しむ」「ありがとう」などです。中でも「ありがとう」という言葉は他の人に言ってもらえると、すごくうれしい言葉だと思います。わたしは「ありがとう」

と思っけていても、口に出して言えない時もあるのです、これからは、勇気を出して「ありがとう」と友だちや家族に言える人を目指していきたいと思ひます。

筑邦銀行賞

親切のつながり

久留米市立北野中学校 一年 松田 勇真

道ばたに落ちているゴミ、河川敷に落ちているゴミを見て何か思っけたことはありますか。ぼくはどうしてこういう場所にゴミを捨てるのだろうかと思ひます。

小学校六年生の夏休み、地元の北野天満宮で行われたよど祭りに行きました。最初はいろんな友達と会えたりお店で食べ物を買って食べたりにして楽しく過ごせました。しかし時間が経つにつれて気になることができてきました。会場内のあちこちにゴミが落ちていたのです。その光景にぼくはとてもびっくりしました。母

や友達に袋をもらってぼくはできるかぎりのゴミを拾ひました。だけど袋が小さくて枚数もすくなく全く足りませんでした。だから次に祭りがあるときには多めに袋を持っけていこうと思ひました。

また十月に北野天満宮のおくんちという祭りがあつたときには、大きい袋を持っけていきました。やはりたくさんゴミが落ちていてあつという間に袋の中がゴミでいっぱいになりました。まだまだゴミがたくさん落ちていて、ぼくが困つていたところ友達が声をかけてくれました。友達の家に行つてゴミ袋をもらってゴミ拾ひを再開しました。友達も一緒にゴミ拾ひを手伝ってくれました。

ぼくは声に出してまわりの人や友達に呼びかけ等は出来ない性格です。けれど正しいと思っけたことを実行する事はできます。ゴミをゴミ箱以外に捨てることは環境に良くないと思っただので、今回ゴミ拾ひをしました。ぼくたちが住んでいる町のお祭りで、楽しそうに多くの人があつまっています。けれど、ゴミがおちているようなお祭りにはしたくありません。ぼくが行つ

た小さな親切の中でよく自身も友達から親切を受けたように感じました。ほくも親切がつかっていく経験をしてさらに親切をしようと思いました。だからみなさんも小さな親切をつないでいきましょう。今年の夏のおまつりはいろいろ部活などがあっていけないかもしれないけれどまたおまつりに行ったら楽しむことも大事だけれどゴミが落ちていたら拾うことを心がけてまつりを楽しみたいです。

久留米警察署長賞

私の小さな親切

大牟田市立宅峰中学校 二年 庄山 心菜

私は、わたしのした「小さな親切」について考えました。周りを見ることで自分も周りの人も温かい気持ちになるし、感謝されることでもっと自分はしてよかったです。たとえ感じると思いました。

友達とショッピングモールに出かけたときに、ショッピングモールを周って少し疲れたので、私たちはエレベーターの近くにある長い椅子に座って話をしていました。周りには人がたくさんいたけれど、私たちは特になにも気にせずお話していました。すると、ふと目の前に一人の妊婦さんが立っていることに気づきました。椅子に座ろうとしていたけれど、私たちを含め、たくさんの方が座っていて椅子が空いていなく、隅で少し辛そうな表情をしているように見えました。妊婦さんが椅子のほうを何度か見ていたけれど、たくさんの方が座っていたため、座るのを遠慮しているように感じました。そこで私は「あ、座りたいのかも」と思いました。すぐ立ち上がりうとしたとき、友達と目が合い、四人で立ち上がりました。そして私たちは妊婦さんに向かって声をかけました。

「ここ、どうぞ。座っていいですよ。」

その瞬間、妊婦さんは少し驚いたように笑顔になって、

「ありがとうございます。」

と言ってくれました。

私たちは少し照れくさくなりながらもその笑顔に安心しました。でも、ちょうどその時に旦那さんが来て一緒にエレベーターに乗っていきました。結局、椅子には座らなかったけれど、私たちの方を振り返ってお辞儀をしてくれました。そして、エレベーターの扉が閉まる直前、妊婦さんが旦那さんに

「さっきの子たちすごく親切で優しくかったんだよ。」
と言っているのが聞こえました。その言葉を聞いたときに、心が温かくなりました。たとえ椅子に座ってもらえなかったとしても、「声をかけたこと」や「思いやりの気持ち」はちゃんと伝わっていたのだと感じてうれしかったです。

今まで私は困っている人を見つけても、他の人が助けてくれそうだなとか、話しかけようとしても人見知りがでてしまって声をかけられなかったりすることがたくさんありました。だけど、このような経験を通して、小さな行動でも相手の気持ちを考えて動くことで、自分も相手も温かい気持ちになると分かりました。これからはもっと周りの人に目を向けて、自分に出来る

ことを考えて行動できるようになりたいです。

久留米商工会議所会頭賞

元気なあいさつで地域の人とつながる

八女市立みさき学園 七年 鶴田 葵

みなさんは、毎日あいさつを友達や家族、地域の人と、交わっていますか。私は毎日、たくさんの人にあいさつをします。

私は春、中学一年生になり、毎日約七キロメートルある道のりを、四十分くらいかけて自転車で通っています。中学生になる前は自転車で通うのは嫌だな、と思っていました。なぜなら、私のお姉ちゃんも中学生の時、自転車で通っていて大変そうだったからです。ですが、中学生になって自転車で通い始めて、嬉しいなど思う事ができました。それは、地域の人とあいさつを交わすことです。朝、自転車で登校していると、

早くから外に出ている地域の方々がいます。私は、外に出ていての方にお会いすると、元気な声で

「おはようございます。」

と、あいさつをします。そうすると、地域の方は、

「おはよう。転ばんごこと気をつけてね。いつてらっしゃい。」

と、はげましの言葉といっしょにあいさつを返してくれます。その言葉を聞いて、嬉しくなり、一日頑張ろう、と元気になれます。また、私の住んでいるところは、地域の人があたたかくて良い所だなあ、と心が温かくなります。

一方で、自転車で通学するのは嬉しいことばかりではありません。雨の日は、ぬれないようにカッパを着たり、すべて転ばないようにゆっくり漕いだりしないといけないので、大変です。そんな時でも、家の窓から笑顔でおじぎをしてくださる方や、車道と自転車が走る道が交わる所で、先に行かせてくださる方がいます。私は、今までの、もう漕ぎたくないという暗い気持ち、あと少しだから頑張ろうという明るくポジ

ティブな気持ちになります。

また、以前、登校中に転んでしまった時に近くにいた地域の方が、すぐに

「大丈夫？痛かったね。」

と言って立たせて下さいました。友達も、リュックを教室まで運んでくれました。足が痛かったので、手伝ってくれて嬉しかったです。

私は、中学になって、あいさつは周りの人と自分をつないでくれる、大切な事だと分かりました。また、あいさつは人を元気にする力がある事を知りました。この学びを、これから生かしていくために、どこに行っても、毎日誰かが笑顔になれるような元気なあいさつをしていきたいです。



西日本新聞社賞

挨拶をする意味について

大牟田市立宅峰中学校 二年 原田 妃菜里

みなさんは挨拶の意味を知っていますか。私はいつも自然と挨拶をしています。あまり意味などを考えたことがなかった。調べてみました。挨拶の「挨拶」は自分の心を開く、「挨拶」は相手の心に近づくといい意味でつまり「自分の心を開き相手を認め相手の心に近づくといい意味になっています。確かに仲良くなりたいう友達や近所の人と話するとき、一番はじめに話すのはおはようなどの挨拶です。なのでその意味を調べたときとても共感することができました。挨拶をするときも相手も嬉しくなります。そこで一日の挨拶を振り返りそのときの気持ちを思い出してみることにしました。

まず朝起きて家族に言う「おはよう」。登校している

ときに友達や近所の方々にも使います。おはようを使うとその日一日を気持ちよく迎えられるように感じられます。そして相手をはげますようにも感じとれます。これらのことから知っている人だけではなくいろいろいんな人におはようと挨拶をしたいと思いました。

次にお昼に使う「こんにちは」。ところでこんにちはとはどのような意味なのでしょう。気になって調べてみました。すると昔は太陽のことを「今日様」と呼んでいたことから「今日様があなたを無事に守ってくれますように」という思いを込めてこんにちはというようになったという説があるみたいで私はそれを知るととても心があたたくなりました。なのでこの意味をたくさんの人に知ってもらってたくさんの人に挨拶をしてもらいたいなと思いました。

最後に人にだけではなく食事に対しても使う「いただきます」と「ごちそうさま」。その中の一つのいただきますは食材となった動植物の命、食事を作ったり運んだりしてくれた人など食事に関わった全ての人や命への感謝を表していると思います。いただきますとご

毎日新聞社賞

小さな親切がくれた安心

久留米信愛中学校 一年 速水 綾萌

ちそうさまは食事の始まりと終わりだけでなく、食事に対する感謝の気持ちを表す日本の食文化にとつても重要な挨拶だなと思いました。命への感謝を伝えることができるいただきますはとてもすてきな言葉だなと思いました。

これらの色々な挨拶は一日に何度も使います。ですが今まではそんなに意味を考えずに使っていました。今回色々な挨拶の意味を調べたり考えたりしてみても、挨拶一つ一つにちゃんとした思いが込められているんだなということが分かりました。そしてその思いを知ったからこそこれからの挨拶がとても楽しみになりました。挨拶をすれば相手も嬉しい気持ちになるという意味がちゃんと分かった気がするので今回調べたり考えたりした挨拶の意味を色々な人に伝えていきたいです。

中学校に入って、私は初めてのバス通学をすることになりました。初めて学校の帰りにバスに乗って自分の家の近くのバス停で降りるために何度も頭の中でシミュレーションしました。

私は、バスを降りやすいように前の方の席に座りました。私が降りるバス停はほとんど降りる人が少ないのでタイミングをのがすと降りそこねてしまう不安があったからです。

ところが、その日は途中のバス停で他校の人たちがたくさん乗ってきました。急にバスの中がぎゅうぎゅうになって、

「どうしよう…。降りられないかも…。」と、私は不安になってドキドキしました。でも、その時近くにいた

高校生のお兄さんが、私の様子に気付いてくれました。

「ここで降りる？」

と、優しく声をかけてくれました。

そのおかげでバスを降りることが出来ました。バスの外に出たとたん、

「はあ、良かった。」と心の中で大きなため息が出ました。見ず知らずの人に優しくしてもらったのは初めてかも知れません。知らない人にも助けてもらうとほっとした気持ちになり、自宅に無事帰れることでも安心しました。その日から、私はバスの中で周りの人を見るようになりました。ドアの近くでソワソワしている人や、お年寄りが立っているときなど、「大丈夫かな？」と気にかけるようになりました。

前は自分の事で精いっぱい周囲の人が困っている様子に気付いたことがありませんでした。でも今は困っているのかな？」と自然と目が向くようになりました。まだ自分から声をかけるのは、少し勇気がいります。知らない人に声をかけるのは正直ドキドキするし、まぢがえたらどうしようと思ってしまうこともあります。

でも、あのお兄さんがしてくれたみたいに、ちょっと

したひとことや通してあげるだけでも、それがだれかにとつて、大きな助けになることがあると知りました。

もし、あのお兄さんがあの時声をかけてくれなかったら、私はバスをおりそこねて、不安なまま一人で困っていたかも知れません。そのときの安心した気持ちは今でもはつきり覚えています。

小さな親切はたったひとことから生まれるという経験をしました。そして、小さな親切がだれかにとつて、大きな安心になるということは気付きました。

いきなり大きなことは出来なくても、まずは、「気にかけること」から始めたいです。

私もだれかの不安に気付けたとき、そっと手を差しのべて安心を与えられる人になりたいです。



朝日新聞社賞

「あいさつ一つで、笑顔二つ」

久留米市立筑邦西中学校 二年 平島 詠

ある日の朝、学校に行こうとするとお母さんに、

「ちゃんと近所の人にあいさつしてるね？」

と聞かれました。私は、急いでいたので何も言わずに学校に行きました。自転車で行きながら小学校の時を思い出してみると、中学校の時よりも近所の人や先生にあいさつをしていたなと思いました。私の小学校ではあいさつを大事にしている、新しく来た先生やお客さんに、気持ちの良いあいさつだとよくほめられていました。

家に帰ってきて、またお母さんに、

「ちゃんとあいさつしとるとよね？」

と、聞かれました。私は、

「小学校の時に比べたらしてないかもしれん。自転車

やし、たまに頭下げるだけの時もあるかも。前に、あいさつしても返ってこなかったことが何回かあったけん、あいさつしづらくなった。」

と答えました。

「あなたたちの学年は小学校の時、あんなにあいさつでほめられていたのにね。」

と言われました。

私が小学校六年生の時の担任の先生は、あいさつをすることで「信頼関係を作ることができる」「相手の様子を知ることができる」と話していました。そして、「あいさつ一つで、笑顔二つ」という言葉を教えてくれました。私は、小学生の時は、廊下で先生方に会うと少し立ち止まって、お辞儀をしながらあいさつをしました。地域の人にあいさつをすることは減ったけれど、今でも教室を出る時はきちんとお辞儀をしながらあいさつをしています。部活に行く前は、教室に誰もいなくても、お辞儀をしながら「さようなら。」とっています。これは、私が五年生の時からずっと続けてきたことです。何気なく続けていたけれど、お母さん

に言われた一言で、小学生の時に大事にしていたあいさつをする事の意味をもう一度思い出しました。

中学生になって、あいさつをする事が減っているなと思います。それは、中学校の友だちが小学生の時よりもあいさつをお互いにしていないから私もしなくなつたのだと思います。お互いあいさつをすることに對して恥ずかしい気持ちが出てきているのかもしれない。でも、あいさつをすることは恥ずかしいと思うことなのでしょうか。私は、あいさつが返ってこなかった時が悲しいし、恥ずかしいから、どこかできなくなつていることがありました。でも、私があいさつをしないことで、先生が言っていた「二つの笑顔」が増えないと考えました。だから私は、今までよりもあいさつをすることを意識して、少し勇気を出すことで、あいさつで、笑顔を増やしていきたいと思えます。

讀賣新聞社賞

「親切の連鎖」

久留米市立筑邦西中学校 二年 廣田 悠人

ある平日の夕方、私は母に買い物を頼まれスーパーに居た。その日は、一週間分の食材を買う日だったので、カゴいっぱい商品に詰めていた。学校終わりだったこともあり、ひどく疲れていたのと、「早く家に帰りたいな」という一心で足早に店内を回っていく中で、カゴはどんどん重くなり、気付いたら片手では持ちきれない程になっていた。そんな手元に意識が向いていない時に取ったパックの牛乳を間違つて落としてしまった。いつもならすぐに拾って終わりなのだが、落としてしまった、というショックが先行したのだろう。私はその場に立ち尽くしていた。するとその時、若い男性客がスツと手を伸ばして代わりに拾ってくれながら、「大丈夫ですか?」と優しく微笑みかけてくれた。そ

の一連の動作は、ほんの一瞬だったが、私は彼の優しさと行動力に強く心を打たれた。私は咄嗟に「ありがとうございます。」とお礼を伝えた。それに対して彼は、「大丈夫ですよ。」と、再びにこやかに返してくれた。

彼の一連の行動は、彼にとつて特に大きい行動ではなく当たり前のことをしたただけだったのだと思う。「落ちている物があるから拾う」ただそれだけ。例えばそれがゴミであつても財布であつても。だからこそ私は素直に「ありがとうございます。」と感謝を伝えられたし、その行動で羞恥心や苛々から解放されたのだと思う。

我々はどうしても日常において自己中心的な行動をしてしまう。例えば、目の前にゴミが落ちていても、「誰かが拾うだろう」とか「めんどくさいからいいや」など。でも、あの男性のような何気ない行動で誰かに優しさや親切を与えているかもしれない、という事に気付かされた出来事であつた。だから私は、素直な気持ちで当たり前のことを当たり前に行動していきたい。また、私は「親切な人」ではなく、「親切を広げる人」になりたい。常に周囲への気遣いを持って行動するこ

と、そこに見返りを求めない事などで、優しさや親切は相手に伝わるのではないだろうか？それが、水面に石を投げたように綺麗な親切の波紋を起こすと思う。それが結果的に、「親切の連鎖」となり、世の中の空気を、きつと良い方向に変えていってくれると思う。また、その「石」を私自身で投げる事ができるように、まずは日々の行動を見直すことから始めようと思う。私は明日、いや今この瞬間から、その「一歩」を踏み出す。

時事通信社賞

小さな勇気のカケラ

久留米信愛中学校 一年 山城 祐翔

「大丈夫かな。」そのときぼくは、そう思いながらも一歩を踏み出す事ができませんでした。未だにあのときの光景を思い出して、後悔と情けない気持ちでいっ

ばいになります。それは、ぼくが小学校六年生のときの夏のことです。塾の帰りに疲れた身体を休めようと普段は立ちながら乗る電車にこの日はたまたま一つ席が空いていたのでその席に座ることにしました。教科書などが沢山入っている重たいカバンを足元に置き、一息ついて頭を座席の後ろにつけたまま疲れもあつたせいかだんだんと眠くなってうとうととしていました。気がつくとぼくは眠ってしまっていて、目を開けると目の前には杖をつき、腰が曲がっていた八十才前後くらいに見えるおばあさんが立っていました。ぼくはその瞬間、「席をゆずらなきゃ」と思いました。けれど、同時に心の中で小さな迷いが生まれました。「でも、声をかけるのは勇気がいるな。」「断られたら怖いな。」「ほんの一瞬のことでしたが、考えれば考えるほど体が動かなくなり、席を立てずにいると近くの人が立ち上がりそのおばあさんにゆずっていました。おばあさんは「ありがとう。」と笑い、その席に座りました。その光景を見て、ぼくは胸の奥がちくりと痛みました。本当ならぼくが真っ先にゆずるべきだったのにそう思い

ながらもやはりほっとしている自分もいました。その後、次第に強い後悔が押し寄せてきました。

そのことを次の日、塾の先生に話すと先生はほくに「親切とは決して恥ずかしいことじゃないんだよ、大事なのは自分が相手の立場のときどう思うか。それを考えればいいんだよ。」と言ってくれその言葉を聞いて、ぼくははっとしました。ぼくは周りにどう思われるかばかりを気にして、肝心な相手の気持ちを見失っていたのです。

それからのぼくは電車に乗るたび自分に言い聞かせるようになりました。「次、同じことがあつたとき、迷わず席をゆずろう」そう決心しました。すると先日、電車の中で荷物を抱えた妊婦さんを見かけました。ぼくは迷わず席を立ち上がり、妊婦さんに席をゆずりました。妊婦さんは少し驚いたあと笑顔で「ありがとう。」と言ってくれました。そのときぼくの胸の奥が少し温かくなり、あの日何もできなかった自分が少し報われた気がしました。そのときの胸が高まる気持ちを忘れられません。

ぼくは、あのとき席をゆずれなかった自分を忘れてくありません。後悔は苦しいけれど、後悔があるからこそぼくは成長することができました。これからもぼくは、相手の立場で物事を考え、小さな親切ができる人間でありたいと思います。そして、できなかった親切をできる親切に変えていき、日々成長し続けていきたいです。



入 選

優しさは、気づく力

久留米市立宮ノ陣中学校 三年 関 美心

「優しさ」とは、どんな力だろう。私は、最近、「優しさは気づく力」なのではないかと思うようになった。「助けて」と言えない誰かにそつと手を差し伸べたり、目立たないところで支えたりするのは、特別な力ではなく、ちょっとした気づきから始まるのだと思う。そうした優しさは私たちの身のまわりに、実はたくさんあるのではないかと感じている。

ある日、私は学校で傘を持ってかえらなまま帰ろうとしていた。すると、友達が「忘れてるよ」とわざわざ教室の外まで持ってきてくれた。私は気づいていなかったのです、とても驚いたし、心があたたかくなつた。友達は何気なくしたかもしれないが、あの時は、私は救われたような気持ちになった。また別の日、バ

スに友達と乗っていると杖をついたおばあちゃんが乗ってきた。バスは満席だった。近くにいた私は、少し勇気を出して「大丈夫ですか？よければ席どうぞ！」と席をゆずった。おばあちゃんは「あら、ごめんなさいね、ありがとう。」と笑ってくれた。その笑顔を見て、私の方こそうれしくなった。席をゆずるのは簡単なことだったけれど、気づくことができなければ、できなかったと思う。「小さな親切」は、目立たないことが多い。けれど、そういう行動こそが人を支えたり励ましたりしているのだと思う。「困ってそうだな」「落ち込んでいるのかな」「ありがとうって言いたいな」そんな小さなサインに気づけるかどうか、優しさにつながっていく。逆に言えば、どんなにいい人でも、まわりに目を向けていなければ、本当の優しさは行動にならないと思う。

私はこれからも、人の表情や行動に気づける人でありたい。たとえ「ありがとう」と言われなくても、「やってよかった」と思えるような行動をしていきたい。優しさは特別な人だけが持っている力じゃない。誰にで

もある「気づく力」を大事にしていきたいと思う。

入選

あいさつについて

久留米市立筑邦西中学校 三年 大石 泰靖

二年生のときの授業で「なぜ人はあいさつするのか」という授業をしました。その時の担任の先生は「大石さんはどうしてあいさつをしているのですか？」と聞かれて私はしばらく黙ってしまい「なんとなく、何も考えずにあいさつをしています。」と先生の質問にこたえました。その授業から私はあいさつにはどのような意味があり、なぜ人はあいさつを交わすのか考えたいと思います。

まずあいさつの語源について調べてみました。あいさつの語源は禅宗で問答を交わして相手の悟を深淺試すことを「一挨拶いちあいいっさつ」といいその言

葉が由来するそうです。挨には「心を開く」揆にはその「心に近づく」という意味があります。あいさつとは自分の心を開くことで相手の心に近づくということです。

これは初めて会う人のことを表しているのではないかと思います。なぜなら、初めて会う人にはまず自分から心を開くことで相手も心を開き、その心に近づいて仲を深めるということが同じだと思ったからです。

そして次にあいさつに関することを調べてみました。するとあいさつをしている人の割合は全体で約七割で、六十代の人が約八割、二十代の人が約五割と若い人ほどあいさつをしている人が少なくなっているということが分かりました。

あいさつをする人がどんどん減っている。これは人と人とのコミュニケーションがなくなってしまう。すると、人と人との関係が悪くなったり、仕事や学校にも悪い影響を及ぼすのではないかと考えました。あいさつをする若い人が半分しかない。これは大きな問

題だと思えます。

人はなぜあいさつをするのか、それは、初めて会う相手や、いつも会話をする友達、仕事の関係者などと良い人間関係をつくり、コミュニケーションの第一歩としてあいさつを交わすと考えました。

あいさつをすることで、自分の心を開き、相手の心を開かせ仲の良い関係がつけられるといういいところがあります。しかし、今あいさつをしている人がだんだんと減っているということが分かりました。これはとても大きな問題です。あいさつには人と人との関係が良いものとするというとてもよい効果があります。私は今までなんとなくあいさつをしているだけだったけれど、これからは心をこめてあいさつしたいです。



入選

親切とは

大牟田市立宅峰中学校 三年 下川 莉衣

私が思うに親切とは、相手のことを思う気持ち、そして勇気だと思う。

小さな親切の作文を書くにあたって一番に思い浮かんだことがある。

今も鮮明に覚えている、四年前の朝。私が小学五年生のときの話だ。登校中、先にあるバス停から一人のおばあさんが降りてくるのを見た。そのおばあさんが傘を落としてしまい、気づかないまま遠くに行ってしまった。それを見た私は、すぐに届けなきやと思った。しかし、なかなか体が動かない。急に知らない人に話しかけられたら、おばあさんは立ち止まってくれるだろうか。私はとても不安になった。けれど、おばあさんが傘もなく、濡れながら帰る姿を想像すると、「絶対

に渡さなきや」と強く思った。責任感のようなものがわいて、私は勇気を出しておばあさんに声をかけた。すると、おばあさんは柔らかい笑顔で「ありがとう」と言ってくれた。

その日、私はとてもいい気持ちで一日を過ごしたのを覚えている。親切は、した側ももらった側も気持ちがいいことを実感した。だが、親切はとても勇気がいるものだと思う。例えば、相手のために手伝ったつもりでも、その人がその助けを必要としない場合もある。自分が相手を思っただけで行った行動が空回りしてお節介になることもあるのだ。相手のために行動することは、とても難しいことなのかもしれない。だからこそ、勇気を出して行った親切は、人を幸せにする力があると思う。

私は、親切とは「相手のことを思う気持ち」と、それを行動にうつす「勇気」だと思う。だから私は、誰かが困っていたら、すぐに手を差し伸べられるような人になりたい。それがたとえお節介になっても、相手を感じる気持ちで、その勇気を大切にしていきたい。そ

して、あの日の出来事のように、親切なことをすると、とても温かい気持ちになることができ、お互い幸せな気持ちになれることを、たくさんの人に知ってもらいたい。親切は、特別なことをしなくてもいい。ただ、「大丈夫」と声をかけるだけでもいい。消しゴムを拾うだけでもいい。小さなことでもそれは立派な親切だと思う。これからも、身の回りの「自分にできること」を探し率先して動いていきたいと思う。そして親切であふれる世の中になったら、今よりもっと優しくあたたかい世界になると私は思う。

入選

バスの中のさりげない行動

久留米市立宮ノ陣中学校 一年 柿本 麻里

家に帰る途中のバスの中は、いつも以上に混み合っていた。人と人の隙間を切り抜けてなんとか車内前へ

進んだとき、奇跡的にひとつだけ席が空いていた。「ラッキー」と心の中でつぶやきながら、その席に腰を下ろした。手には、ずっしりと重い手提げ袋、中には、今日使った教科書やノート、ワークなどにかくいろいろなもの、袋や鞆につめこまれていて、腕も肩もパンパンに張っていた。立ったまま帰るのは正直つらい。座れたことに、心から「良かった」そう思った。けれど、顔を上げ、目にまっ先に写ったのは、片手で手すり棒を掴み、もう片方の手で買い物袋のようなものを下げたご高齢の方が立っていた。私は一瞬目をそらした。「見なかったことにしたい」そんな気持ちが頭をよぎった。だって本当に疲れていたのだ。なれない中学校生活、なれない通学、小学校と比べると、三段階レベルが上がった気がした。「しょうがない」そんな考えが頭をよぎったとき、ある言葉が頭の中に浮かんできた。「自分が少し、無理をしても、誰かが笑顔になるのなら、その無理は意味のあるものだし、私は喜んでそれを選ぶよ。」部活の先生が練習の合間におっしゃった言葉だ。その言葉が心の奥の方で静かに響いた。

私はゆっくりと立ち上がった。何も言わずに、静かに席を離れた。「どうぞ」と声をかける勇氣はなかったけれど、それでも一歩、前へ進むことができた。立ち上がった後、怖くてその席を見ることはできなかったけれど、自分が少しでも変わった気がして、あんなに重かった荷物が、少し軽く感じたのは、気のせいだろうか。

ほんの小さな親切。誰かにとっては見逃してしまいうようなさりげない行動。しかし、した人にとっても、された人にとっても忘れられない行動。そんな行動を、自分からもっと増やしていきたいし、そんな小さな幸せに、気づける大人になりたいです。



入選

バス停

久留米信愛中学校 一年 中村 功之介

ある日の塾の帰り、家に帰るためにバス停でバスを待っていました。そしたら、辺りをキョロキョロと見ている人が目に入りました。このバス停は他のバス停に比べて比較的大きく、最初の方は迷いやすいからなと思いつながらバスを待ちました。しかし、僕は気になりました。いろんな場所を行ったり来たりをくり返していました。僕はこのバス停には詳しくなかったので、勇気を出して話しかけることにしました。「どうかしましたか」と、その人に話しかけました。その人は一瞬おどろいたようにこつちを見て、「ここまで行きたいんですけど」と困ったような顔で言いました。「ここに行きたいなら、あそこで待っていたらいいですよ」僕はそう言ったら、「ありがとうございます」笑顔でそう返さ

れました。「バスが来るまで時間があるので、一緒に行きましようか」と言うと、「なら、お願いします」と言われ、そのまま行くことにしました。

乗り場に着いて、「ありがとうございます」とまた、感謝されました。そうして、自分の乗り場に戻ってきて、その人が乗っているバスが先に出発してから、数分後に自分が乗るバスが到着してバスの中に入りました。バスの中に乗っている間に、僕の胸の中がなんだかぽかぽかと温かくなったような感じになりました。

人を親切に大切にすると、相手だけではなくて、自分の心も満たされるのだと感じました。大きなことをしなくても、道を教えたり、荷物を持ってあげたり、近所の人や小学生などに、笑顔であいさつをしたり、そんな小さな親切が誰かの一日を少し明るく笑顔にすることができると感じました。これからも、困っている人がいたら、ためらわず手を差し伸べられるような人でありたいと思います。今まで、ただバスに乗るだけだった事が、少し視野を広げる事で、困っている人に気付くという事がわかりました。それ

が、自分の新しい発見でもありました。

これから、バスに乗る時だけではなくて、電車に乗る時や他の公共の場所でも、視野を広くして困っている人がいたら、すぐに気付いて、助けてあげるようにしていきたいと思いました。

入 選

小さな親切が運んできた奇跡

久留米市立宮ノ陣中学校 三年 熊添 結南

私の祖母は、毎朝神社の掃除をしている。とても古く、小さな神社で観光客もあまり来ないような場所だ。それでも祖母は、雨の日も風の日も、一日たりとも欠かしたことがない。落ち葉を掃き、石段の苔を取り、手水舎の水を替え、神様に一礼して帰ってくる。

私は小さい頃、祖母のすることがよく分からなかった。

「誰も見てないのに、なぜそんなに頑張るの。」

と聞くと、祖母は笑って

「見てなくても、心は見ているから。」

と言った。正直その時は意味が分からなかった。けれど、ある時から私は祖母の「小さな親切」がもたらす不思議な力を感じるようになった。

まず最初の「奇跡」は、祖父が、病氣から回復したことだった。医者からも、

「手術をしないと長くはない。」

と言われた。けれど、手術が無事成功し、容体は回復に向かい、元気に退院した。

次に起こったのは、セキセイインコが突然やってきたことだ。神社の掃除をしていた祖母のもとに、どこからともなく飛んできた一羽のセキセイインコが、ふわりと頭にとまった。それはまるで「ここに来たかった」と言うかのように、迷いも怖がるそぶりもなかったという。

その後も、父に新しい仕事の話が舞い込んできたり、不思議な出来事が次々と起こった。

すると、家族の誰かがつぶやいた。

「おばあちゃんが毎日神社をきれいにしてるから、神様が味方してくれてるんじゃない？」

私は笑いながらも、その言葉を信じたくなった。

祖母は言う。

「掃除は、自分のためでもあるのよ。誰かの幸せを願いながら掃除をすると、自分の心も整うの。」

それを聞いたとき、私は「親切」という言葉の本当の意味に触れた気がした。親切は、大きなことではなくてもいい。見返りを求めるものでもない。ただ、誰かの幸せを願い、小さな行動を続けること。それが、やがて人の心を変え、運命をも動かすのだと。

祖母の親切は、静かで、地味で、誰にも気づかれなない。でも、その積み重ねが、私たちの家に「奇跡」と呼ばれるような出来事を連れてきた。目には見えないけれど、確かにそこにある力。それは、きっと祖母の優しい心が呼び寄せたものなのだと思う。

私はこれからも、「誰も見てなくても、心は見ている」という祖母の言葉を忘れずにいたい。そして、誰かの

幸せを静かに願える人間でありたい。小さな親切が生む力を、私は信じている。



令和七年度

久留米市ふれあい都市推進協議会総会

令和七年七月十日(木曜日)開催

ふれあい都市宣言を行った久留米市と当会が中心となり、ふれあい都市宣言
を実行するため、市民および各団体等と協力し市街地の道路や河川の清掃活動
やあいさつ運動などを行っています。

令和七年度定期総会

令和七年七月十日(木曜日)開催

筑邦銀行本店三階大ホールにて令和七年度定期総会開催致しました。

令和六年度の事業報告および決算報告ならびに令和七年度の事業計画および予算案について報告を行い承認を頂きました。また、定期総会
において「小さな親切」実行章の贈呈と「小さな親切」運動実践優秀校の表彰を行いました。



開会宣言
緒方幸一 副会長



主催者挨拶
佐藤清一郎 会長



来賓挨拶
橋本政孝 久留米市副市長



来賓挨拶
松岡保治 久留米市議会副議長



閉会宣言
江上昭子 副会長



久留米市ふれあい都市推進協議会
定期総会



事務局報告風景

「小さな親切」実行章の贈呈(個人の部)

○久留米市東合川町 徳永 慶太郎様

徳永さんは地域のゴミ拾いを兼ねたウォーキングを十年近く続けています。

徳永さんの活動は地域の防犯にも役立ち、不審者への抑止力や街灯の不具合にも気づく機会にもなり、安心して暮らせる環境づくりに繋がっていると地域の方々から感謝の声が寄せられています。



「小さな親切」実行章の贈呈
徳永慶太郎様

○久留米市御井町 大石 真大様

大石さんは、二十数年にわたり地域の清掃活動を毎日続けてこられました。

大石さんの活動は自治会の模範となるもので地域の皆さんから感謝の気持ちが届いています。

「小さな親切」実行章の贈呈(団体の部)

○久留米山岳会 代表 福本 勲様

久留米山岳会は、九十四年の歴史を有し県内でも八幡山岳会に次ぐ二番目に古い伝統のある山岳会です。久留米山岳会では、登山の技能を活かし機械では対応が難しい篠山城址の石垣の清掃活動を春と秋に実施しています。久留米山岳会の活動は、城跡の歴史遺産の保存と景観美化に大きく貢献されています。



「小さな親切」実行章の贈呈
久留米山岳会様

○青峰ラジオ体操グループ 代表 吉田 光雄様

青峰ラジオ体操グループのメンバーは、地区内の公園で毎朝のラジオ体操を日課としています。メンバーは、ラジオ体操が始まる前と体操終了後の各々三十分程度の時間に公園内や緑道に清掃と手入れを十年以上継続して実施しており、公園を利用する家族や緑道を通る地域住民からたくさんの感謝の気持ちが届いています。

「小さな親切」運動実践校

優秀校表彰

一、久留米市立荒木小学校

学校で設定している「月の目当て」の内容に、「あいさつ」や「言葉づかい」の項目を取り入れ、学校全体で取り組むことで、意識して進んで望ましい言動を実践する子どもが増えている。また、「小さな親切」作文コンクールへの応募も熱心に行われており、あいさつや親切に関する心に残る体験や経験について自分の言動を文字に書き起こしながら振り返り自己を見つめる姿を積み上げていく。このような地道な取り組みが、昨年度の「小さな親切」作文コンクール久留米市長賞受賞の子ども達の輩出につながっている。

これらの継続した取り組みが「小さな親切」運動の趣旨に沿っていると認められました。



「小さな親切」運動実践校 優秀校表彰
久留米市立荒木小学校様

二、久留米市川合小学校

川合小学校では、PTA活動の一つとして毎月一日と二十日の朝に交通指導と登校指導を行っている。子ども達と保護者や教師が笑顔で元気な挨拶を交わす声が地域にも広がり、学校への信頼と温かい校風をつくりだしている。また、子供たちはエコキヤップ収集運動にも意欲的に取り組み、昨年度はワクチンに換算して四十六人分のワクチンを届けることができ、自分たちの活動と社会への貢献について考えさせる契機となった。

こうした年間を通じた活動が「小さな親切」運動の趣旨に合致するものと認められました。



「小さな親切」運動実践校 優秀校表彰
久留米市立川合小学校様

三、久留米信愛中学校

生徒会が中心となり、毎朝欠かさず玄関であいさつ運動を実施していることで生徒も教師も挨拶は人と人をつなぐ大切な一歩と再確認できている。また、「あすこそは」という言葉（挨拶・スマイル・腰骨を立てる・履物を大切にすること）を大切にし、自分の言動を振り返ることで望ましい実践を自己決定していくことにつなげている。

受験生に気持ちよく入試に臨んでもらうために生徒自らが校舎の隅々まで清掃を行ったり、三月には一年間の感謝を込めて後輩に譲る机を磨き上げエールをメッセージとして残す活動を行っており、生徒自らの成長とこれからの生活の目標を見つめる良い機会となっている。また学校全体でエコキヤップや使用済み切手、コンタクトケースなどの収集を行うなど様々な奉仕活動に取り組んでおり、小さな行動が世界中の弱い立場の人々に届いて役立っていることに喜びを感じている。

これらの取組が「小さな親切」運動の主旨に沿った活動と認められました。



「小さな親切」運動実践校 優秀校表彰
久留米信愛中学校様

四、久留米市立田主丸中学校

生徒会執行部とPTAが協同して、年に四回「あいさつ運動」を行っている。校門では生徒同士、保護者や地域の方と生徒間で挨拶が交わされ、コミュニケーションも深めることが出来た。教職員も分担して登校指導を行うことで生徒一人ひとりの表情や登校の様子を確認することができ、生徒も相手の目をみて挨拶を進んでできるようになるなど成果が挙がっている。エコキヤップ収集運動も積極的に行っている。生徒会専門委員会の活動として全校生徒に協力を呼びかけたり、日常的に各学年の廊下に収集箱を設置し点検や回収を行っている。小さな活動であるが継続して意欲的に取り組むことで、賛同者や協力者に広がりがみられ、学校と家庭・地域との連携を築く契機となっている。

これらの活動は、「小さな親切」運動の趣旨にそった活動と認められました。



「小さな親切」運動実践校 優秀校表彰
久留米市立田主丸中学校様

都心部道路美化キャンペーン

令和7年6月1日(日曜日)開催

久留米市ふれあい都市推進協議会の主催で、当運動の会からは30団体212名の皆様に参加いただきました。



植え込みの中にもゴミがあります！



みなさんががんばりましょう！



街がきれいになりました！



親子で街をきれいに...頑張ってます！

第54回久留米まつりパワーストリート「クリーンパレード」

令和7年8月4日(月曜日)開催

今回は、16団体74名の皆様の参加いただきました。



みんなで久留米のまちをきれいにしよう！



パレードに出発です。



暑い中ご苦労様です。



こんなところにもゴミが落ちています。

街を美しく・明るく・ゴミのない街に！

当運動の会では会員の皆さまにご参加をいただき清掃活動を行っています。私達の住む街を美しく・明るく・ゴミのない住み良い街にしよう、と、「ゴミのポイ捨てはやめましょう」「街をきれいにしましょう」と呼びかけ、地域の皆様にもご協力をいただいております。

令和7年度 筑後川河川美化「ノーポイ」運動

令和7年10月26日(日曜日)開催

国土交通省ならびに久留米市の主催で、当運動の会からは17団体191名の皆様に参加頂きました。



小さなお子さんも頑張ってます。



たくさんの方が集まりました。



みなさんお疲れ様でした！



筑後川がきれいになっていきます。

篠山城址清掃活動

令和7年11月6日(木曜日)開催

九州電力送配電株式会社久留米配電事業所様ならびに関連企業の皆様が、長年に亘り取り組んである篠山城址の清掃活動に当運動の会も参加致しています。当日は21名の会員の方に参加いただきました。



たくさんの落葉が集まりました。



境内もきれいになりました。



皆さん頑張ってください。

令和七年度 表彰式

令和七年十二月十三日（土）開催

場所・筑邦銀行本店 大ホール

作文コンクール入賞者の表彰を行いました。ご来賓や関係者、保護者の方々など約百五十名の皆様にご来場いただき受賞者を祝福いたしました。

作文コンクール表彰

第三十二回「小さな親切」作文コンクールを開催

小学生・中学生の皆さんを対象に、日常生活の中で体験した「小さな親切」を発表していただく場として毎年作文コンクールを実施しています。

今回は久留米市をはじめ筑後地区二円の小学校二十校から三百五十九編、中学校十一校から六百八十五編の応募を頂きました。今年は受賞および入賞をされた四十四編の作品を表彰いたしました。



主催者挨拶
佐藤清一郎 会長



開会のことば
緒方浩一 副会長



来賓挨拶
松岡保治 久留米市議会副議長



来賓挨拶
橋本政孝 久留米市副市長



中学生の部 くるめ「小さな親切」運動の会会長賞
1年 阿南 恵璃花



小学生の部 くるめ「小さな親切」運動の会会長賞
5年 平島 れいな



中学生の部 久留米市長賞
2年 平湯 夏蓮



小学生の部 久留米市長賞
3年 宮野 紗希



中学生の部 久留米市議会議長賞
1年 熊脇 勇太



小学生の部 久留米市議会議長賞
6年 福本 京夏



中学生の部 久留米市教育委員会教育長賞
1年 尾山 由奈



小学生の部 久留米市教育委員会教育長賞
5年 中村 碧



中学生の部 久留米市社会福祉協議会会長賞
2年 森崎 子湖



小学生の部 久留米市社会福祉協議会会長賞
6年 緒方 那帆



中学生の部 久留米市ふれあい都市推進協議会会長賞
1年 北原 実祈



小学生の部 久留米市ふれあい都市推進協議会会長賞
2年 野口 真由



中学生の部 筑邦銀行賞
1年 松田 勇真



小学生の部 筑邦銀行賞
5年 足達 結月



中学生の部 久留米警察署長賞
2年 庄山 心菜



小学生の部 久留米警察署長賞
1年 吉川 小陽



中学生の部 久留米商工会議所会頭賞
7年 鶴田 葵



小学生の部 久留米商工会議所会頭賞
5年 佐伯 茉香



中学生の部 西日本新聞社賞
2年 原田 妃菜里



小学生の部 西日本新聞社賞
4年 森 和奏



中学生の部 毎日新聞社賞
1年 速水 綾萌



小学生の部 毎日新聞社賞
5年 石橋 結心



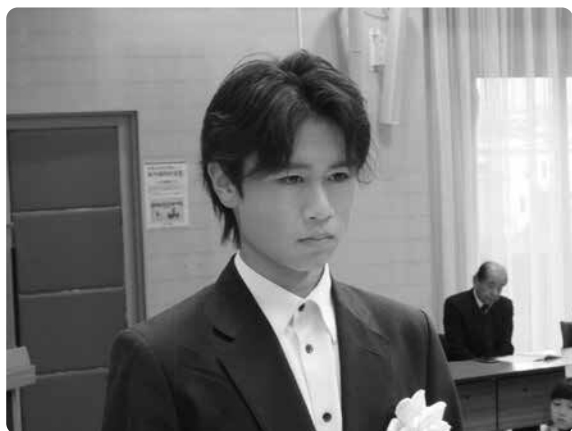
中学生の部 朝日新聞社賞
2年 平島 詠



小学生の部 朝日新聞社賞
5年 青柳 美遥



小学生の部 時事通信社賞
1年 山城 祐翔



中学生の部 読賣新聞社賞
2年 廣田 悠人



小学生の部 入選
5年 高橋 慶一郎



小学生の部 入選
5年 平野 衣緒理



小学生の部 入選
5年 津田 珠希



小学生の部 入選
5年 轟 佳子



小学生の部 入選
2年 末安 莉菜



小学生の部 入選
5年 三堂 加乃



中学生の部 入選
3年 大石 泰靖



小学生の部 入選
5年 古川 栞



中学生の部 入選
3年 熊添 結南



中学生の部 入選
1年 中村 功之介



審査講評
入江剛史 西日本新聞社久留米総局長



作文コンクール全国大会入選の皆さん



優秀作品朗読 久留米信愛中学校
1年 阿南 恵璃花



優秀作品朗読 久留米市立荒木小学校
5年 平島 れいな



閉会のことば
江上昭子 副会長

【あじがき】

くるめ「小さな親切」運動の会は、昭和五十八年七月に設立され、会員の皆様をはじめ多くの方々に支えられて今日を迎えております。この場をお借りいたしまして心より御礼申し上げます。

また、平成元年一月には、久留米市が「ふれあい都市宣言」「小さな親切」運動実践都市”を宣言いたしました。「両者は互いに「明るいあいさつをしよう」「困っている人がいたら進んでお手伝いしよう」「自分たちの住んでいる町をきれいにしよう」など、いつでも、どこでも、誰にでもできるという意味で「小さな親切」と表現された「小さな思い」を社会に伝え、広めようと活動を続けております。今後とも皆様の尚一層のご理解、ご協力を賜わりますようお願いいたします。

今回の作文コンクールには、久留米市を中心とした筑後地区一円の小・中学校三十一校から一、〇四四編の作品が寄せられました。どの作品も力作ぞろいで優劣が付けにくかったのですが、ここに入賞作品四十四編と運動本部審査において内閣総理大臣賞と文部科学大臣賞を受賞した作品を収録いたしましたのでご高覧賜れば幸甚に存じます。

尚、運動本部表彰では荒木小学校五年平島れいなさんが「小さな親切」運動本部賞を受賞、福岡教育大学附属久留米小学校三年宮野紗希さん、宅峰中学校一年北原実祈さん、久留米信愛中学校一年山城祐翔さん、宮ノ陣中学校三年熊添結南さんが入選されました。

最後になりましたが、別添の審査員の皆様には貴重なお時間を頂戴し難しい審査にあたって頂きました。大変なご苦勞をおかけしたことを思います。この場をお借りして御礼申し上げます。

【「小さな親切」作文コンクール審査委員】

五十音順（敬称を省略させていただきます）

◆小学校の部 12名

市丸祥子

上野靖代

後田陽一

内田哲古

賀典之

佐田健次

重松護

野口撰

野口雅裕

橋本広昭

堀敦彦

矢野彰

◆中学校の部 13名

石橋智行

伊藤勝治

井上公利

入江剛史

内川克朗

江上昭子

大原邦秀

笠智宣

河野光英

久保充

菅原信博

首藤有一

谷由美子

ありがとうございました

令和八年二月 くるめ「小さな親切」運動の会 事務局長 後田 陽一



「小さな親切」八か条

- 一、朝夕のあいさつをかならずしましょう。
- 二、はつきりした声で返事をしましょう。
- 三、他人からの親切を心からうけ入れ
「ありがとう」といましょう。
- 四、人から「ありがとう」といわれたら
「どういたしまして」といましょう。
- 五、紙くずなどをやたらに
すてないようにしましょう。
- 六、電車やバスの中で
お年寄りや赤ちゃんをだいたおかあさんには
席をゆずりましょう。
- 七、人が困っているのを見たら
手伝ってあげましょう。
- 八、他人のめいわくになることはやめましょう。

くるめ「小さな親切」運動の会事務局

TEL/FAX(0942)37-7711

〒830-0037 久留米市諏訪野町2456番地の1 筑邦銀行本店内

ふれあい都市宣言

—「小さな親切」実践都市—

街を美しく 水と緑を大切に
心のふれあい ほのぼのと
老いも若さも 豊かな心
見知らぬ人にも あたたかく
小さな親切 育てよう

久留米市は市民みんなで愛のふれあいを大切にする
「小さな親切」運動を街のすみずみにまで
限りなく広げていきます。

平成元年1月15日

久留米市



久留米市ふれあい都市推進協議会
Small Kindness Movement
くるめ「小さな親切」運動の会

編集発行／くるめ「小さな親切」運動の会
印刷所／中央印刷株式会社

ほのぼの「小さな親切」作文集 第32号 (令和8年3月発行)